

2024

Surface Laptop Go 3

セットアップマニュアル

このPC は大学生協オリジナルモデルです。
本セットアップマニュアルは大学生協が発行しております。



本マニュアルはWindows 11 22H2 のバージョンにて検証および作成されております。



お使いのOS バージョンによっては一部表示が異なる可能性があります。

ID・Password 記入欄



大切だから忘れず、記入



ローカルアカウント パスワード

PIN

Office アカウント ID

Office アカウント パスワード

Microsoft アカウント ID

Microsoft アカウント パスワード

ウイルスバスター 登録メール

INDEX

パソコンを正しく快適に使うために気をつけよう！	・・・04
セットアップに必要なもの	・・・05
本体使用準備・各部名称	・・・06
セットアップの注意点	・・・07
タッチパッド操作	・・・08
文字入力	・・・09
初期設定	・・・10
ネットワークへの接続方法	・・・19
デバイスの暗号化(BitLocker) * 必ずお読みください *	・・・20
Windows 11 の主な操作方法について	・・・27
ログインパスワードの変更(設定)方法	・・・31
Windows Update	・・・33
Windows Update 更新中の注意	・・・34
Windows Update 一時停止	・・・35
Microsoft Edge について	・・・36
Microsoft Edge の設定	・・・38
Office のライセンス認証	・・・40
Office 更新プログラム適用について	・・・42
USB メモリの接続	・・・43
【活用編】バックアップの必要性	・・・44
用語集(50 音順)	・・・45
Surface を活用するために	・・・48
Microsoft Store	・・・49
Windows Hello の設定	・・・50
OneDrive の設定	・・・52
電源OFF	・・・56



振動衝撃に注意

パソコンは衝撃や振動に弱いものです。持ち運び時にはケースに入れるようにしましょう。ケースに入れていても自転車のカゴに入れるのは禁物です。振動でハードディスクやボディが壊れる恐れがあります。また、満員電車の圧力で破損した例もあります。机からの落下も破損の原因になりますので注意しましょう。



置き忘れ、盗難に注意

学内や電車の網棚、飲食店などへのパソコンの置き忘れが毎年発生しています。ちょっとトイレに行った際に・・・というケースもあります。パソコンは高価な商品ですが、それ以上に個人情報などの大切なデータがたくさん詰まっています。コンパクトで持ち去られやすいので、盗難などにも注意しましょう。



飲み物に注意

パソコンは電子機器なので、水にとっても弱いものです。部屋の中やカフェなどでうっかり飲み物をこぼしてしまうケースが意外に多いです。パソコンの操作中は出来るだけ近くに飲み物を置かないようにしましょう。また、ちょっとした水滴から守るためにも、キーボードカバーを使うという方法もあります。



液晶画面の取り扱いに注意

液晶画面はガラスです。衝撃や強い圧力で破損します。例えば、PC本体をぶつける、画面を指で力強く押す、キーボードの上にUSBメモリやペンなどを置いた状態でフタを閉じる、PCの液晶ディスプレイ側を持って本体を持ち上げるなどの取り扱いを行うと液晶画面パネルが破損します。掃除の際にも柔らかい布やクリーナーでやさしく拭き取るようにしましょう。

※破損、水濡れ等はメーカー保証期間内でも有償修理になります。



Surface Laptop Go 3 本体

Windows 11をタッチでも操作ができるクラムシェル型PCです。

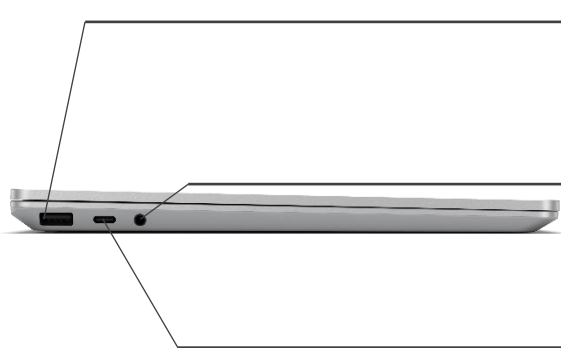


AC アダプタ

Surface の充電器です。
長時間の作業の際に利用します。



● **充電端子(Surface Connect)**
ACアダプターを接続します。



● **USB-A ポート**
USB-A を使用した外部機器への接続に利用します。

● **3.5 mm ヘッドフォン ジャック**
オンライン授業や動画視聴をする際に利用します。

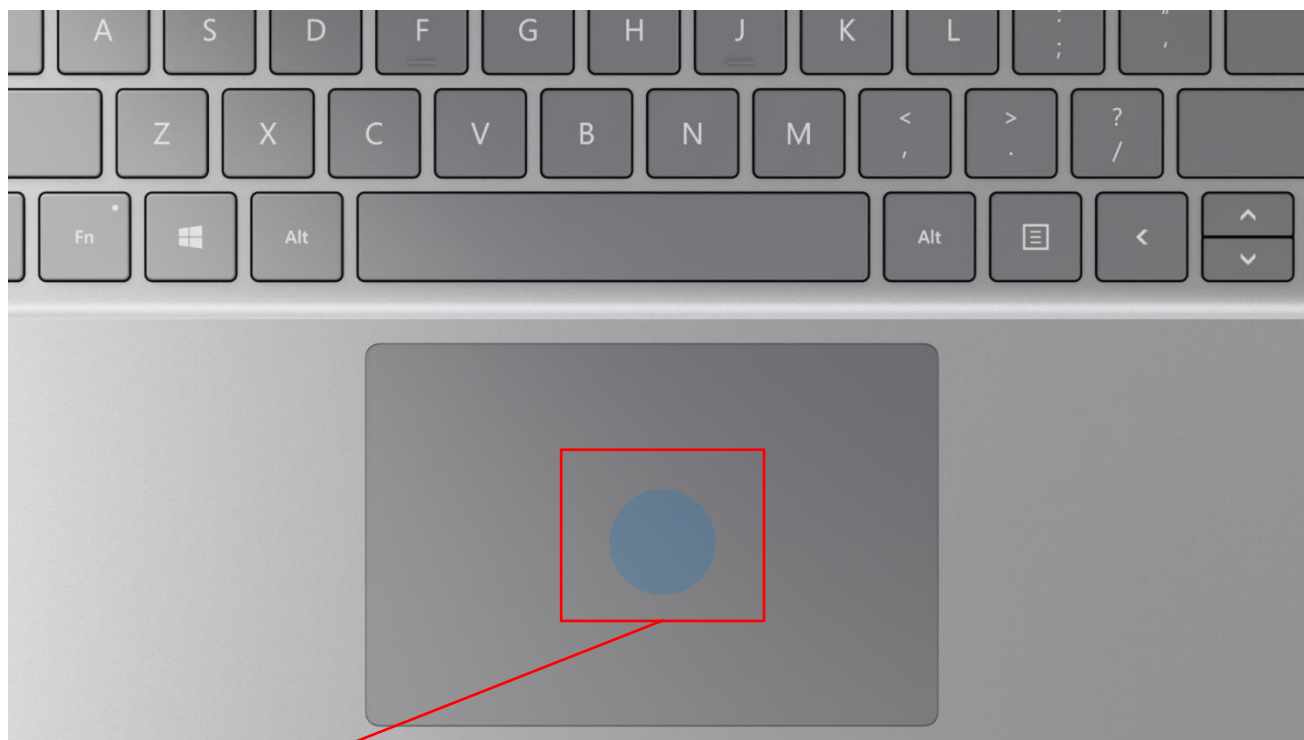
● **USB-C ポート**
USB-C を使用した外部機器への接続に利用します。



● **電源ボタン**
電源ON・スリープといった操作ができます。
また、設定を行えば指紋認証でログインをすることも可能です。

※掲載のキーボードは英語版です。実際の販売品は日本語配列の製品となります

タッチパッド



- ・パソコンを起動し、一定時間操作を行っていないと「省エネ」の為、液晶画面を自動的にOFFにする（スクリーンセイバーなどの）動作を行います
- ・セットアップ中に画面が暗くなったときはタッチパッドに触れると画面が戻ります

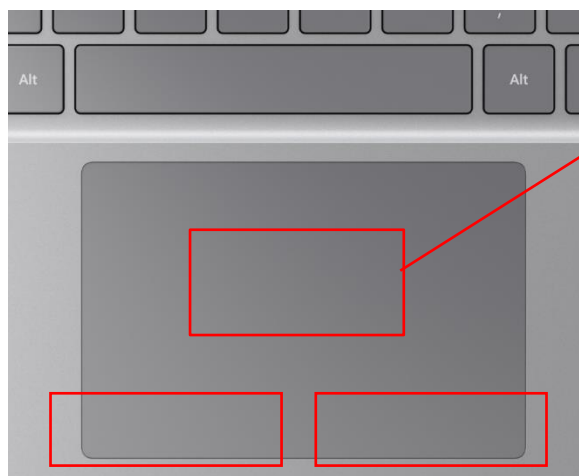
※掲載のキーボードは英語版です。実際の販売品は日本語配列の製品となります

タッチパッドに触れても復帰しない場合

タッチパッドに触れても画面が戻らない場合はスリープモードという状態になっています。その場合は、電源ボタンを操作すると画面が元に戻ります。覚えておいてください。

※異常状態が長く続くとき(10分以上)は電話サポートにお問い合わせください。

ノートパソコンのタッチパッドを簡単に説明します。
タッチパッドが初めての方は一読しておいてください



左クリックエリア

右クリックエリア

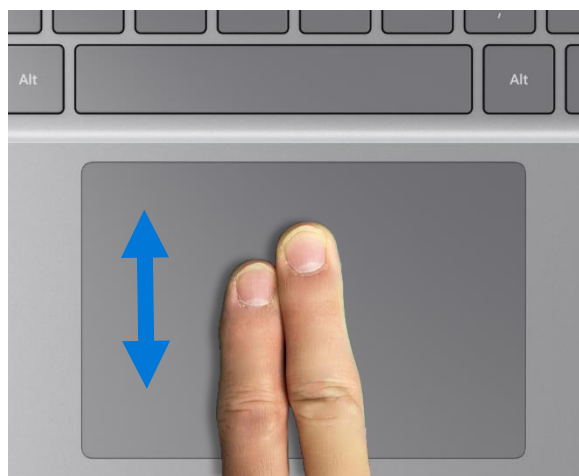
タッチエリア

タッチエリアに指1本を当てて動かすと画面上のマウスカーソルを動かすことができます。



マウスカーソル

基本操作としてはマウスカーソルを動かして画面上のアイコンや文字、リンクに合わせて、**左クリックボタン**で**クリック**や**ダブルクリック**をします。



最近の機種は（本機も）左図のように指2本で上下に動かすと画面**スクロール**ができます。

クリックの種類

・クリック

⇒左クリックボタンを1回押すこと

・右クリック

⇒右クリックボタンを1回押すこと

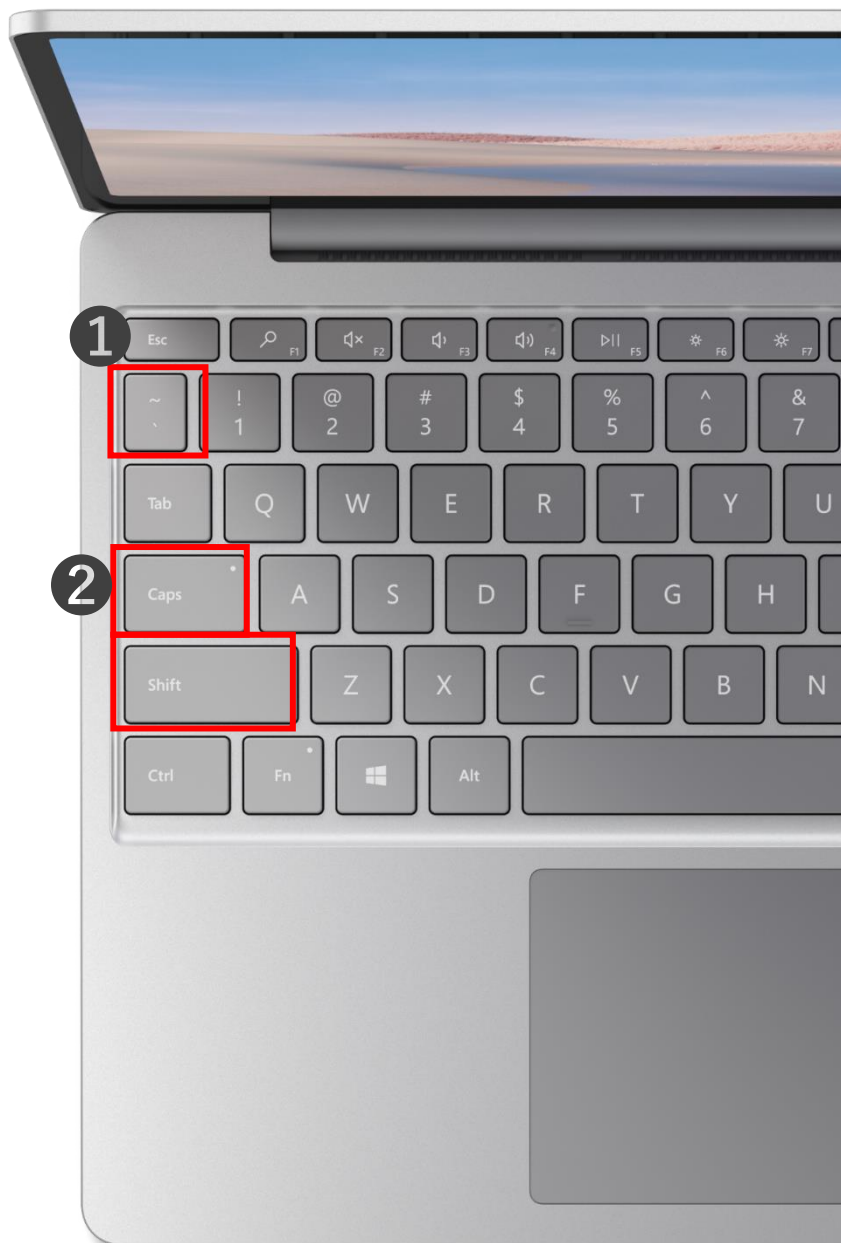
・ダブルクリック

⇒左クリックボタンを2回続けて押すこと

・ドラッグ

⇒左クリックボタンを押しながらマウスカーソルを動かすこと

※タッチエリアのタップ(指先で叩く)はクリックと同じ効果があります。
タッチエリアを2回タップすることで**ダブルクリック**と同じ効果があります

**①半角/全角の切り替え方法**

キーボード左上の【半/全】キーを押して切り替えることができます。

画面右下に表示されている言語バーを見ると、現在の入力の状態を確認できます。

「A」の場合は半角

「あ」の場合は全角になります。

②大文字と小文字の入力方法

キーボードの【Shift】キーを押したまま、文字のキーを押すと大文字で入力ができます。

また【Shift】キーを押したまま【CapsLock】を押すと常に大文字で入力ができる設定に切り替えることができます。

この機能をCapsLockと言います。
※もとに戻す場合はもう一度、【Shift】キーを押したまま【CapsLock】を押すと常に小文字が入力される設定に戻ります。
CapsLock機能が有効か無効については、

【CapsLock】キー

右上のランプが白点灯している場合が有効で、この状態では常に大文字で入力されます。

※掲載のキーボードは英語版です。実際の販売品は日本語配列の製品となります



自身で初期設定を行う際は、デスクトップ画面が表示されるまでの工程を必ず完了させてください

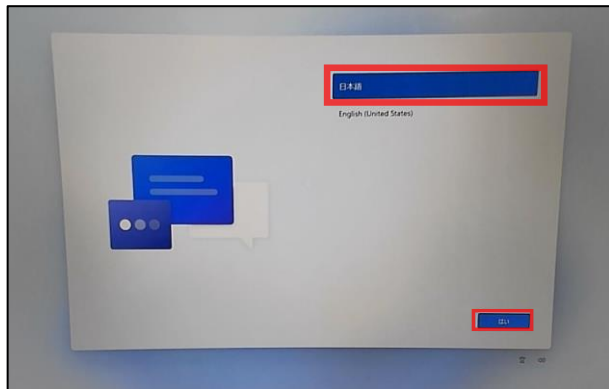
本体・ACアダプター・コンセントにケーブルを接続します



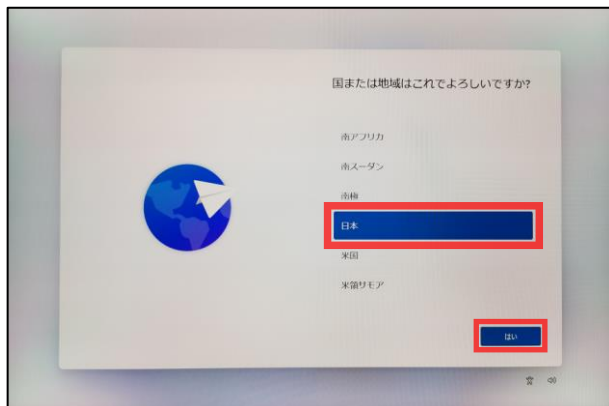
キーボード右上の電源ボタンを押します



Microsoft ロゴが表示され、しばらく待つと初期セットアップにうつります



「日本語」を選択し、右下の[はい]をクリックします。

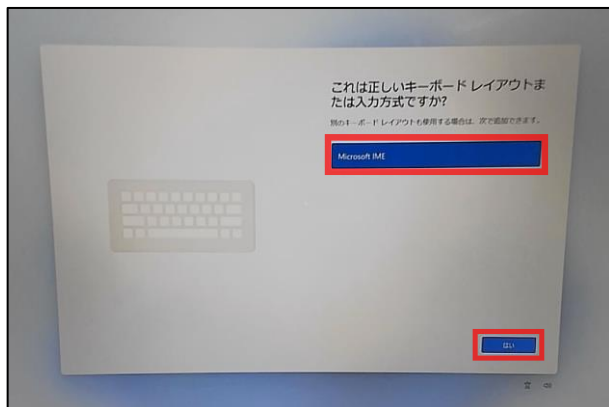


【国または地域はこれよろしいですか？】

と表示されたら、

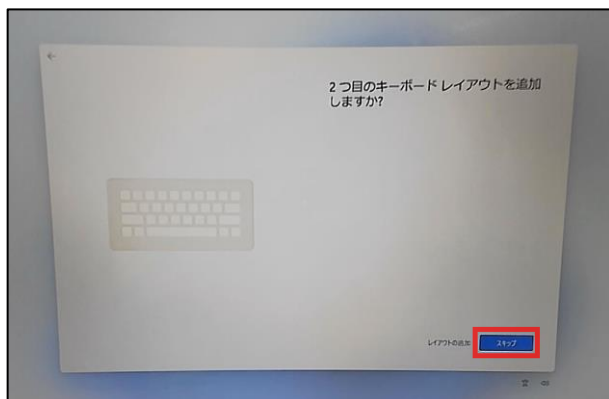
「日本」を選択し、

右下の[はい]をクリックします。



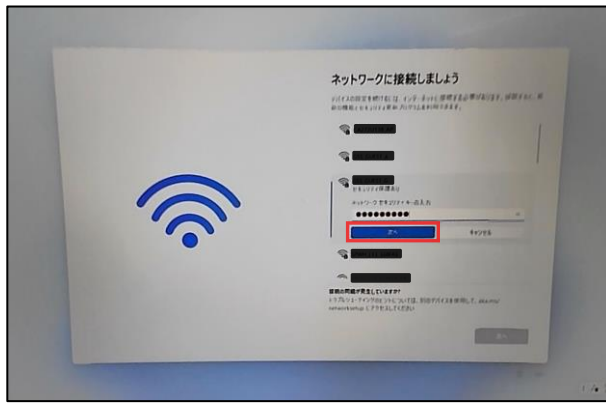
【これは正しいキーボードレイアウトまたは入力方式ですか？】

と表示されたら、「Microsoft IME」が選択されていることを確認し、右下の[はい]をクリックします。



【2つ目のキーボードレイアウトを追加しますか？】

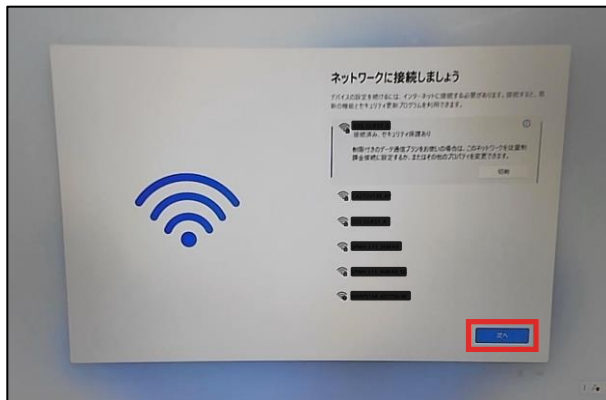
と表示されたら、右下の[スキップ]をクリックします。



【ネットワークに接続しましょう】

と表示されたら、接続先を選択し【接続】をクリック、「ネットワークセキュリティキーの入力」欄にパスワードを入力後、【次へ】をクリックします。

※接続先選択後、「自動的に接続」にチェックを入れることで、次回からパスワード入力を省略できます。

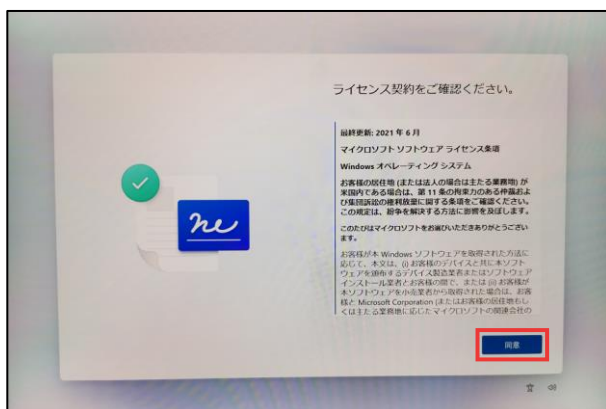


Wi-Fiに接続ができたことを確認後、右下にある【次へ】をクリックします。



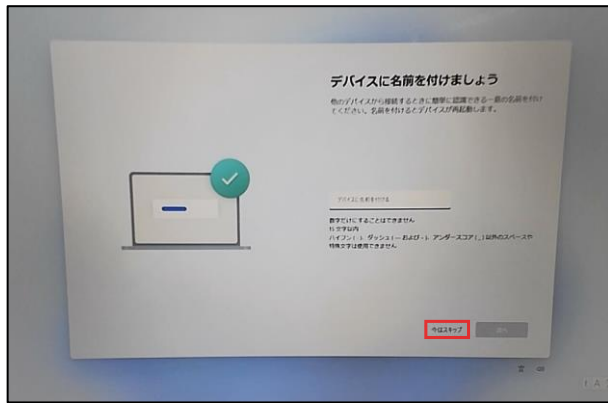
「アップデートを確認しています。」と表示されたらそのまましばらくお待ちください。

※お待ちいただいている間にパソコンが再起動することがあります。また、Wi-Fi接続の設定時に「自動的に接続」にチェックを入れていない場合は、再起動後、Wi-Fi接続画面になることがあります。その場合は「Wi-Fi接続」後に【次へ】をクリックしてください。



【ライセンス契約をご確認ください】

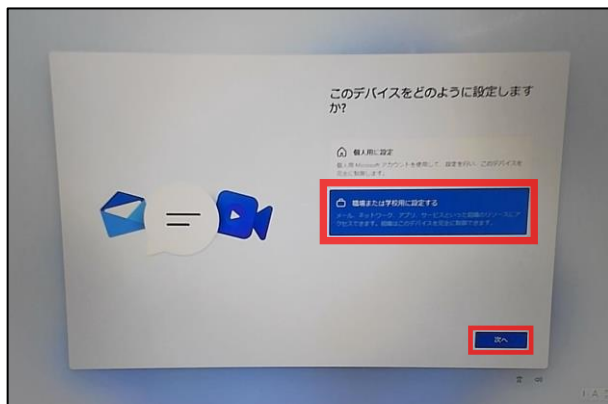
と表示されたら、右下の【同意】をクリックします。



【デバイスに名前を付けましょう】

と表示されたら、右下ある【今はスキップ】をクリックします。

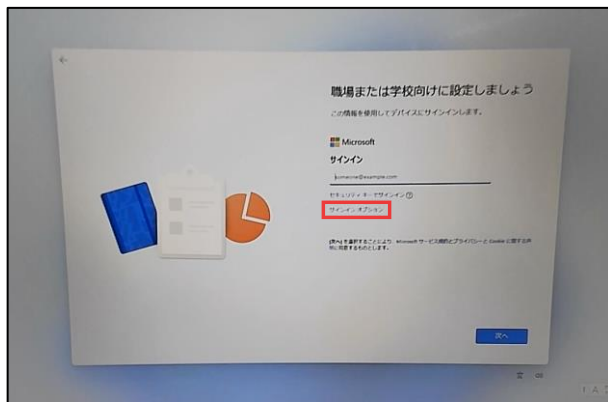
※後で設定が可能です。



【デバイスをどのように設定しますか?】

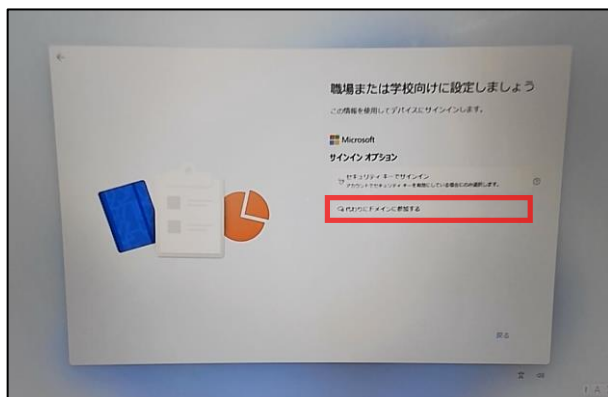
と表示されたら

【職場または学校用に設定する】を選択し、右下の【次へ】をクリックします。

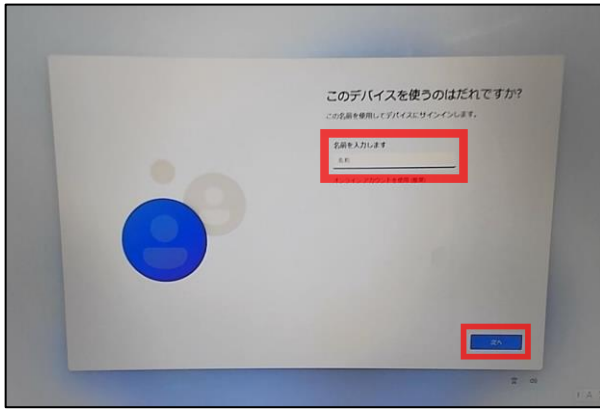


【職場または学校向けに設定しましょう】

と表示されたら、画面中央より少し下にある【サインイン オプション】をクリックします。



続けて、【代わりにドメインに参加する】をクリックします。

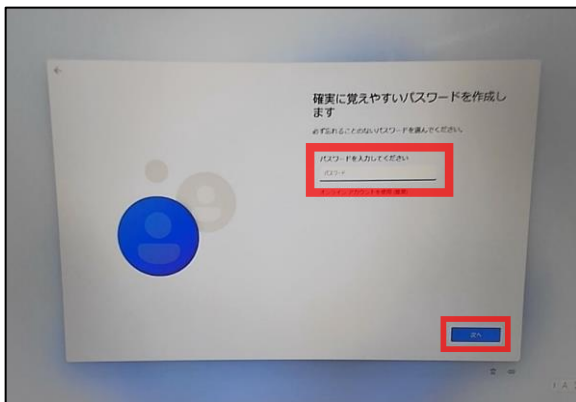


【このデバイスを使うのはだれですか？】

と表示されたら、PC利用時の名前(アカウント名)を入力します

日本語だと文字化けする可能性がある為、半角英数、アルファベットでの入力を推奨します

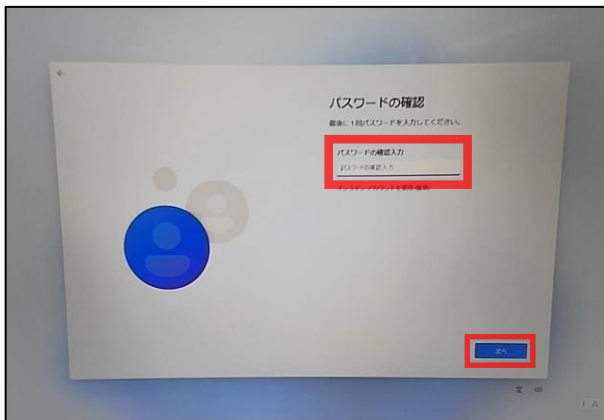
入力したら[次へ]をクリックします



【確実に覚えやすいパスワードを作成します】と表示されたら、パスワードを設定します。忘れることのないよう、必ずどこかに控えておいてください。

入力したら[次へ]をクリックします

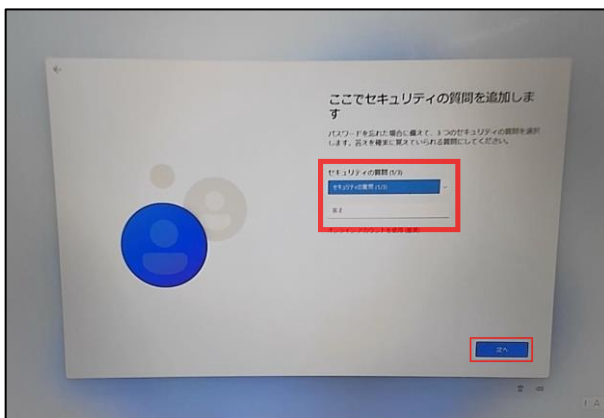
※パスワードの入力をせずに【次へ】をクリックすることで、スキップする事ができます。その場合は「16ページ」の【デバイスのプライバシー設定の選択】へ進んでください。



【パスワードの確認】

と表示されたら、一つ前の画面で入力したパスワードをもう一度入力します

入力したら[次へ]をクリックします



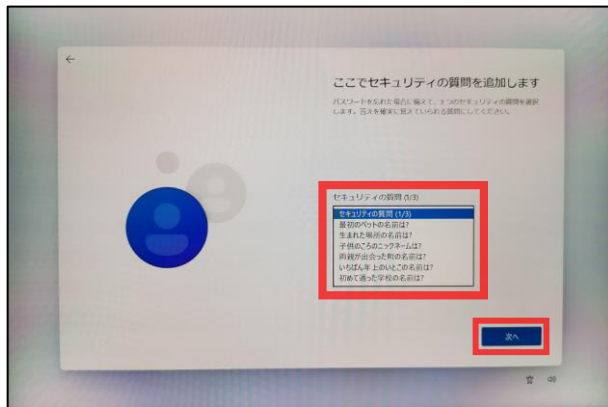
【ここでセキュリティの質問を追加します】

と表示されたら、パスワードを忘れた際の質問と答えを設定します

入力後、[次へ]をクリックします

※忘れることのないよう、必ずどこかに控えておいてください

また、パスワードを設定しなかった場合は表示されません



【このアカウントのセキュリティの質問を作成します】

質問の選択肢は全部で6つあります

以下の中から3つの質問を選択し、答えを設定してください

最初のペットの名前は？

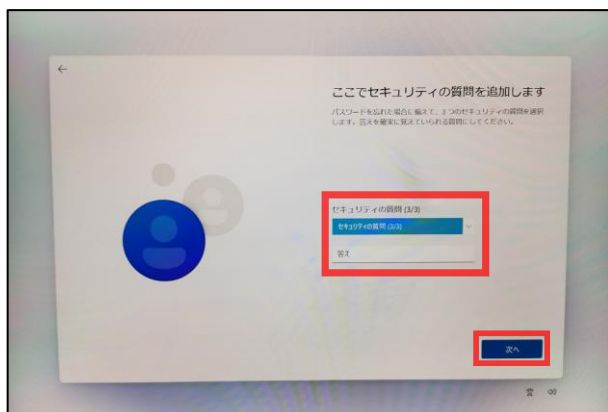
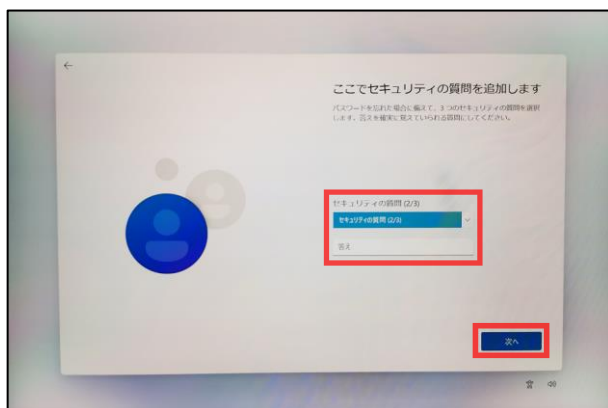
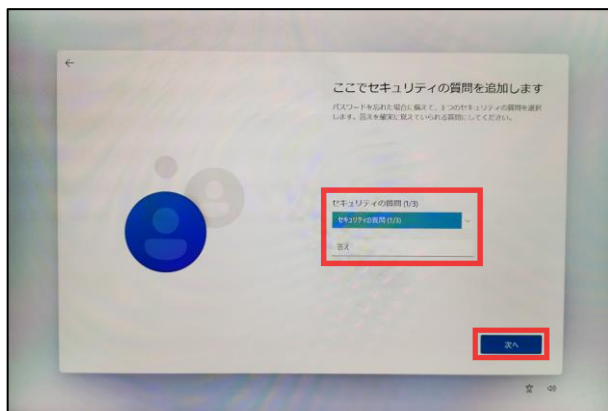
生まれた場所の名前は？

子供のころのニックネームは？

両親が出会った町の名前は？

いちばん年上のいとこの名前は？

初めて通った学校の名前は？





【より迅速かつ安全にサインインするために、指紋を使用しますか？】

と表示されたら、左下の[今はスキップ]をクリックします。



【デバイスのプライバシー設定の選択】

- ・位置情報
- ・デバイスの検索
- ・診断データ

右下の[次へ]をクリック

自動でページがスクロールされ次に



- ・手書き入力とタイプ入力
- ・カスタマイズされたエクスペリエンス調整
- ・広告識別子

右下の[次へ]をクリック

自動でページがスクロールされます



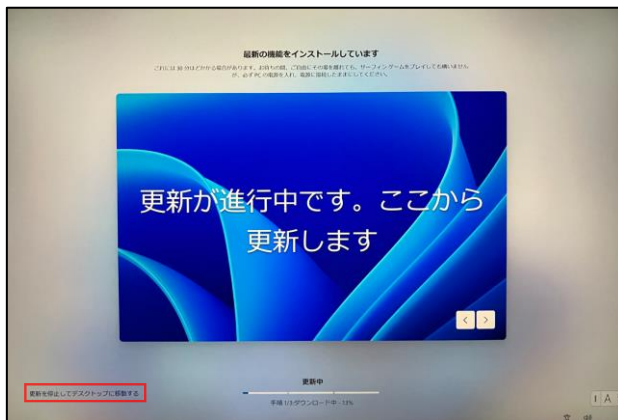
一番下までスクロールが完了したら、

右下の[同意]をクリックします。



【更新プログラムを確認しています】

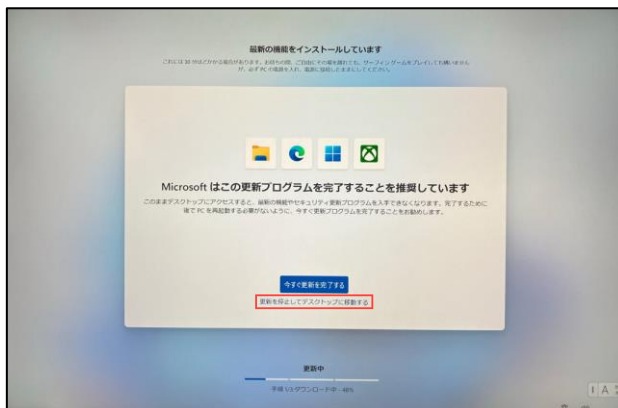
と表示されたら、自動で画面が切り替わるまで待ちます。



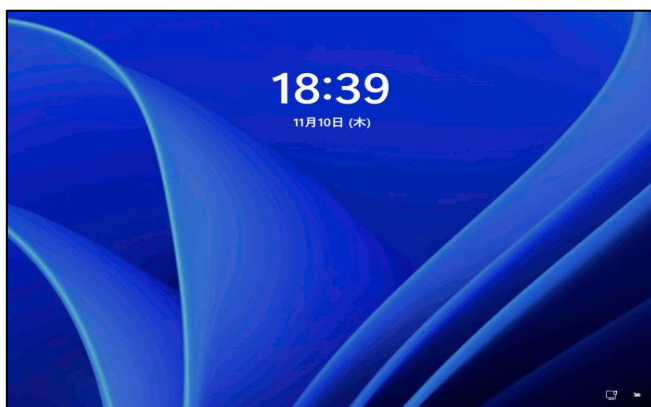
※Windowsのバージョンにより【最新の機能をインストールしています】という表示される場合がございます。

表示されない場合は【次のページ】に進んでください。

表示された場合には、Windowsの更新は後でも行えますので、左下にある【更新を停止してデスクトップに移動する】をクリックします。



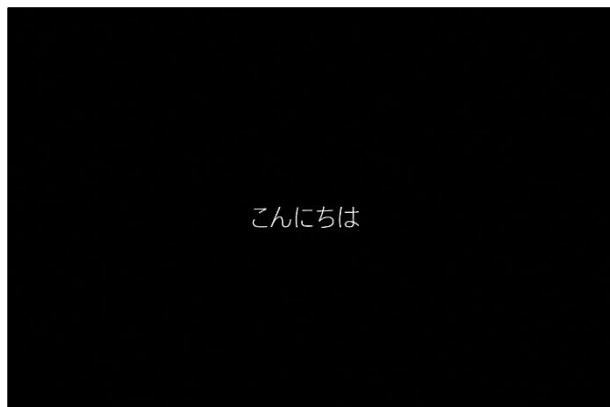
クリック後、画面が切り替わりますが、改めて画面中央下部にある【更新を停止してデスクトップに移動する】をクリックします。



その後、パソコンが再起動を始めます。

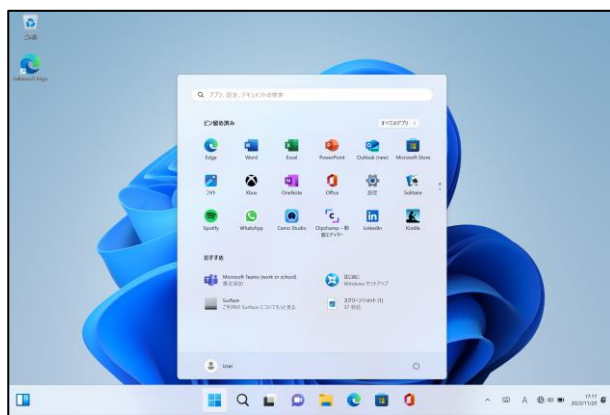
再起動後にWindowsの「ログイン画面」が表示されますので、初期設定の際に「ログインパスワード」を設定されている場合は設定した【パスワード】を入力してください。

※Windowsアップデートについては本テキストの【33ページ】をご確認ください。

**【こんにちは。】**

と表示されたら、初期セットアップの処理が始まりますので、しばらくお待ちください。

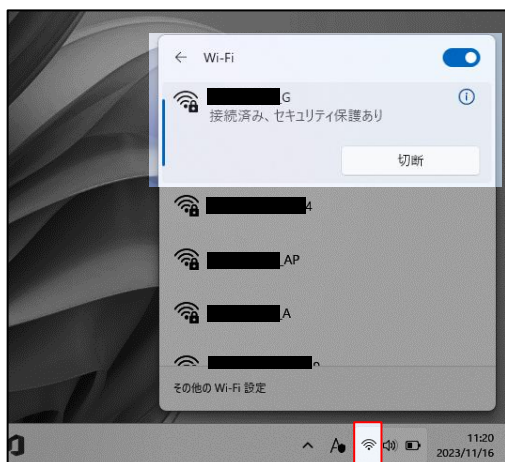
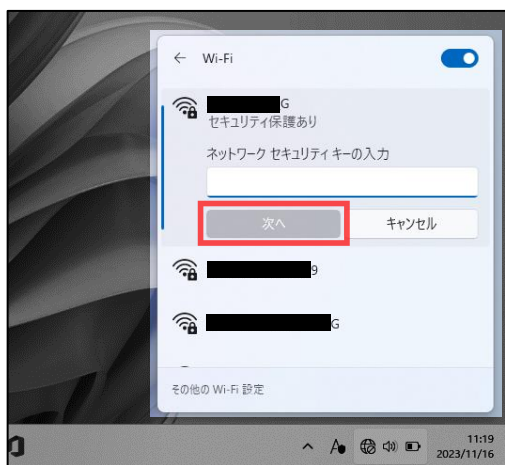
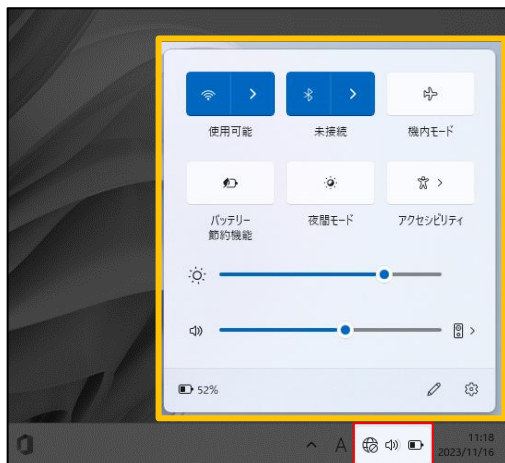
画面が切り替わりますが、初期セットアップの処理を行っているので、デスクトップ画面が表示されるまでお待ちください



しばらくすると

デスクトップ画面が表示されます

これでSurfaceの初期設定は完了です



※違うネットワークに接続する手順の説明です。初期設定の際にネットワークへの接続をしている場合は作業を飛ばして構いません。

デスクトップの右下の

【地球儀】【スピーカー】【バッテリー】アイコン


☰ をクリックし、**クイック設定**を表示させます。

【Wi-Fi】アイコンの隣にある

☰ をクリックし、Wi-Fiの接続先を表示させます。

接続可能なWi-Fiを選択後、

パスワードを入力し、[次へ]をクリック

WiFiに接続ができると地球儀のアイコンからアンテナのアイコンに変わり、

接続したネットワークの下に「接続済み」の表示がされます。

以上でネットワークへの接続は完了です。

「デバイスの暗号化（BitLockerの機能）」について

本項では、掲記の機能をお使いになるうえで知っておいていただきたいことを記載しています。ご購入のパソコンをお使いになる前に本項をよくお読みになり、正しくお使いいただきますようお願い致します。

◆ご利用時の重要なお知らせ◆ 必ずお読みください。 ～修理発生時のトラブルを回避します～

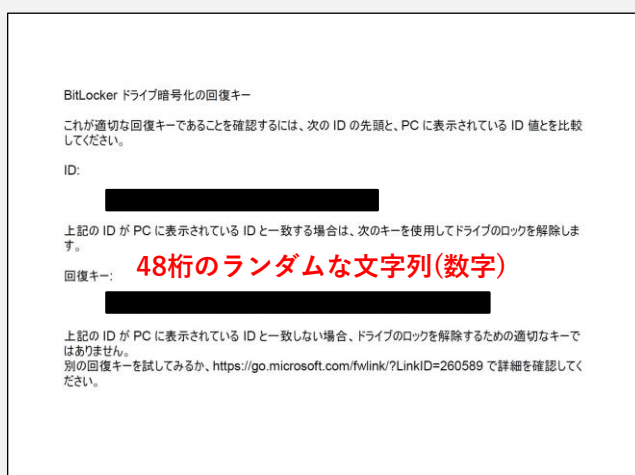
ご購入のパソコンはWindowsに搭載されている機能により、内蔵ストレージが暗号化されている状態で修理を行うとOSの起動ができなくなる可能性があります。

これは、修理後にパソコンを起動するときに「回復キー」の入力を求められる場合があり、正しくキーを入力できないことで発生します。

一部製品では内蔵ストレージの暗号化が自動的に実行されるため、次の「デバイスの暗号化の自動実行に関する注意事項」に記載している手順を行い、暗号化が実行されている場合は「回復キー」をバックアップして紛失しないように保管して下さい。

※暗号化を【オフ】にした後に、再度【オン】すると[回復キー]が変更されますので、その場合は[回復キー]を改めてバックアップし直して下さい。

【回復キーの作成例】



次のページより、
・暗号化状態の確認
・回復キーの作成方法
について説明します。

■注意事項

ご購入のパソコンをMicrosoftアカウントまたは、Azure Active Directoryでご利用になった場合、Windowsに搭載されているBitLockerの機能である「デバイスの暗号化」により内蔵ストレージが自動的に暗号化される場合があります。

パソコンのセットアップ完了後、次の「**■暗号化状態の確認**」でパソコンの内蔵ストレージが暗号化されているか確認してください。

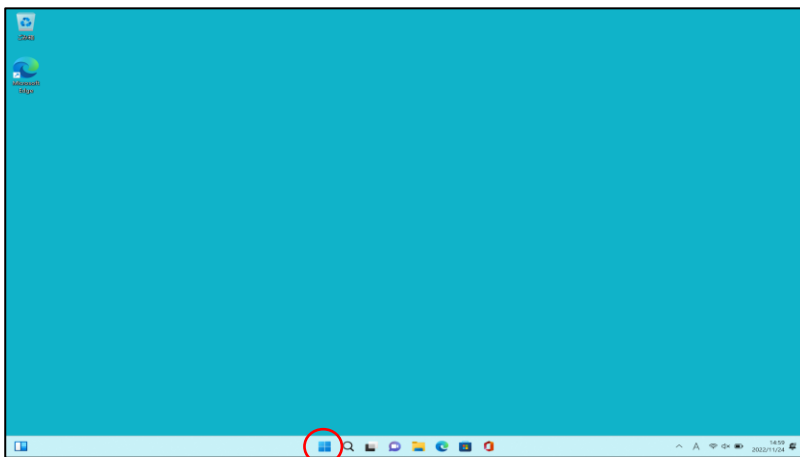
該当するお客様は「**■回復キーのバックアップ**」を行い、紛失しないよう保管して下さい。

■暗号化状態の確認

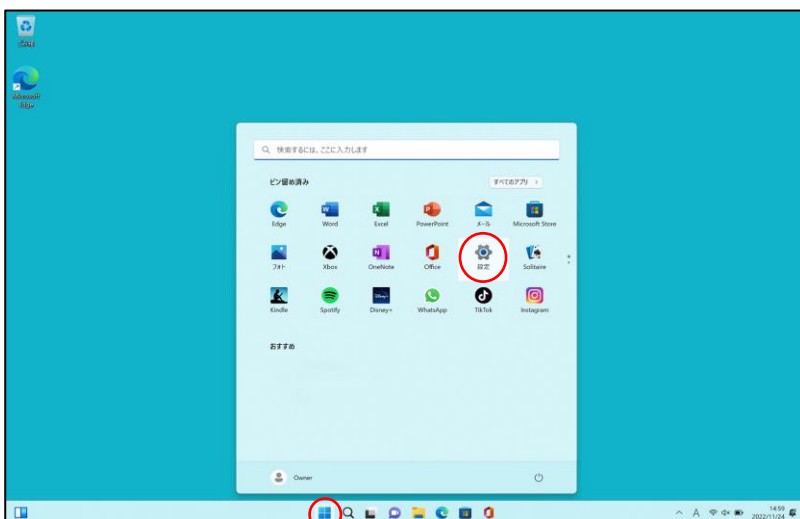
次の手順に従って、お使いのパソコンが暗号化されているか確認してください。

※MicrosoftアカウントやAzure Active Directoryのアカウントを利用していない場合は、自動的に暗号化されることはありません。

※画像は一例です。メーカー、モデルにより表示が異なる場合があります。



①[スタートボタン]をクリックします。



②[設定]をクリックします。



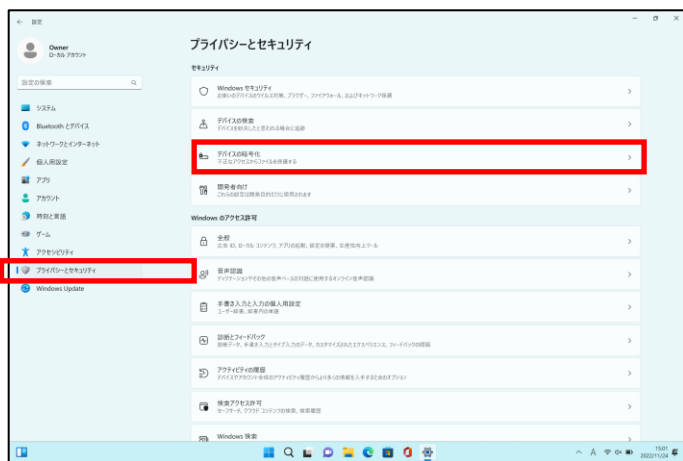
◆デバイス暗号化の自動実行について◆

■暗号化状態の確認

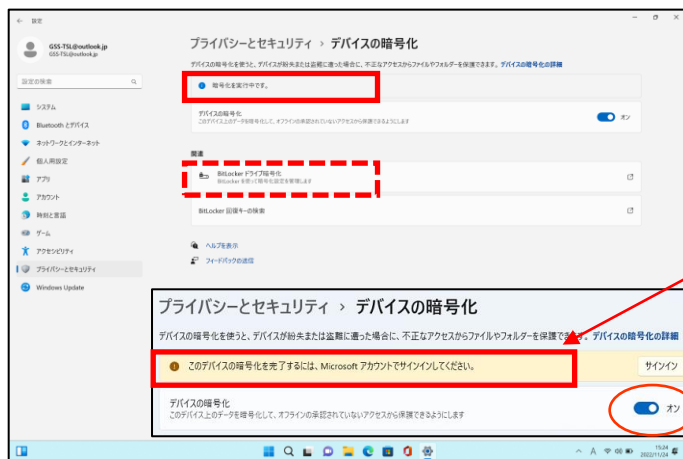
次の手順に従って、お使いのパソコンが暗号化されているか確認してください。

※MicrosoftアカウントやAzure Active Directoryのアカウントを利用していない場合は、自動的に暗号化されることはありません。

※画像は一例です。メーカー、モデルにより表示が異なる場合があります



③「プライバシーとセキュリティ」をクリックし、「デバイスの暗号化」をクリックします。



④「暗号化を実行中です」

となっていることを確認します。

デバイスの暗号化のスイッチがON側になっていた場合でも、「このデバイスの暗号化を完了するには、Microsoftアカウントでサインインしてください。」のメッセージが表示されている場合は、暗号化されてはいません。

「BitLockerドライブ暗号化」の表示があれば、クリックします。



⑤「BitLockerが暗号化中です」

となっていることが確認できます。

注意

暗号化されていない場合は、

「BitLockerが無効です」の表示になっています。

◆デバイス暗号化の自動実行について◆

■回復キーのバックアップ

起動できなくなった場合に備え、必ず「回復キー」をバックアップして紛失しないよう保管して下さい。

※本手順は、デバイスが暗号化されている場合に、[回復キー]をバックアップする手順になりますので、暗号化されていない場合は不要です。

本マニュアルのP21～P22の ①～④の手順で次の画面を表示します。

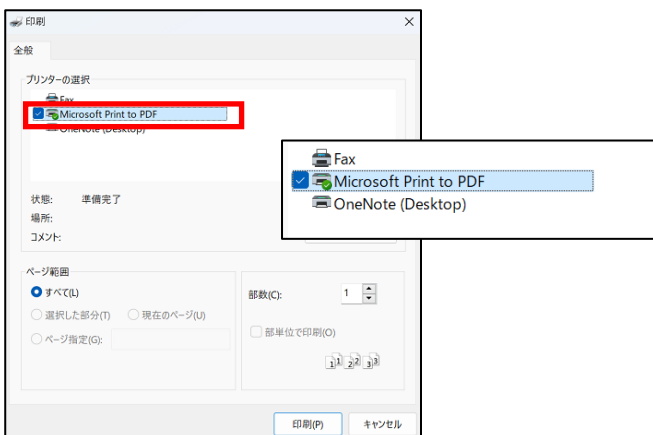


[回復キーのバックアップ]をクリックします。



②[回復キーを印刷する (P)]をクリックします。

※今後回復キーが分からなくなった場合に参考になるページが表示されます。



③今回はPDFファイルを生成します。

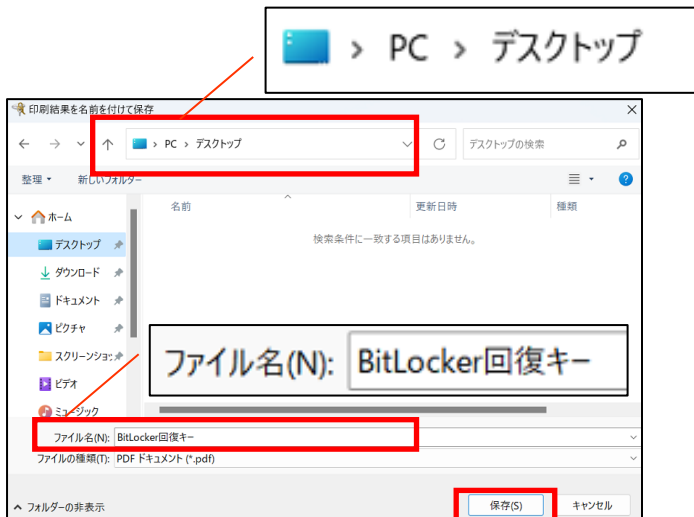
[Microsoft Print to PDF]を選択し、[印刷]をクリックします。

※「Microsoft Print to PDF」が見つからない場合は、今後接続予定のプリンタの設定が終わった後に本作業を行い、紙に印刷していただいても問題ありません。

◆デバイス暗号化の自動実行について◆

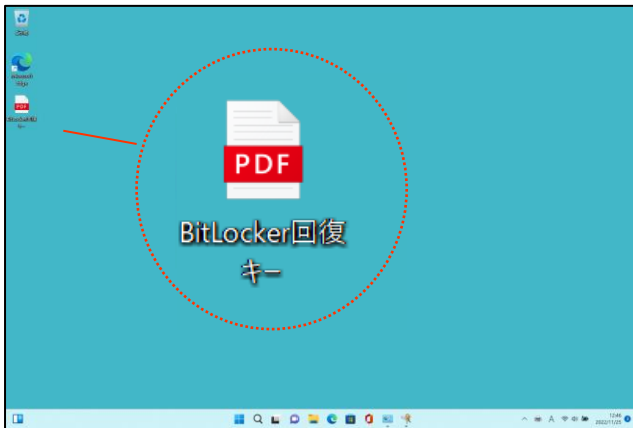
■回復キーのバックアップ(続き)

起動できなくなった場合に備え、必ず「回復キー」をバックアップして紛失しないよう保管して下さい。



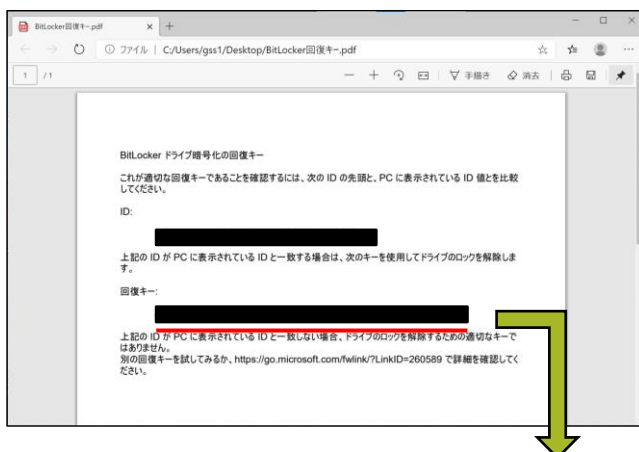
④今回ファイルの保存場所は、「デスクトップ」ファイル名は、「BitLocker回復キー」とします。

ファイルの保存場所を「デスクトップ」に変更し、ファイル名を入力し、**[保存]**をクリックします。



⑤PDFファイルが完成していることを確認します。

※今回の保存場所、ファイル名はあくまで参考ですので、ご自身で任意の場所、任意のファイル名で保存していただいて問題ありません。



⑥回復キーを確認し、メモを取ります。

※ID：の方をメモしないよう注意してください。IDを入力しても起動しません。

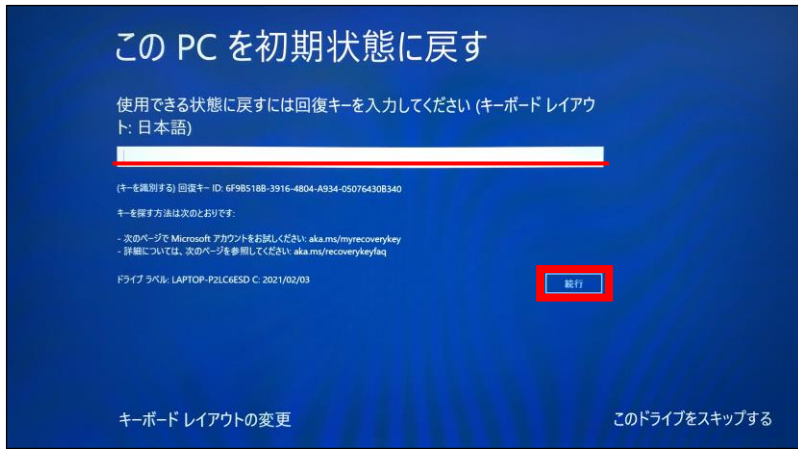
回復キー：**48桁のランダムな文字列(数字)** ※回復キーの「-」は入力する必要はありません。

aaaaa - bbbbbb - cccccc - dddddd - eeeee - fffff - gggggg - hhhhhh

◆デバイス暗号化の自動実行について◆

■回復キーのバックアップ(続き)

起動できなくなった場合に備え、必ず「回復キー」をバックアップして紛失しないよう保管して下さい。



パソコンを初期化したり、修理などを行ってパソコンのハードウェア情報が変わった場合、パソコン起動時に「回復キー」の入力を求められることがあります。

※左の画面はPC初期化手順でのBitLocker回復キー入力画面です。

この場合、回復キー入力欄に48桁の回復キーを入力し、続行ボタンをクリックすれば初期化がスタートします。

Microsoftでログインしている場合、回復キーはMicrosoftアカウントにも保存されています。

以下のURLよりご確認が可能です。

<https://account.microsoft.com/device/recoverykey>

【回復キーメモ欄 合計48桁の文列】

—	—	—
—	—	—

※暗号化を【オフ】にした後に、再度【オン】すると「回復キー」が変更されますので、その場合は「回復キー」を改めてバックアップし直してください。

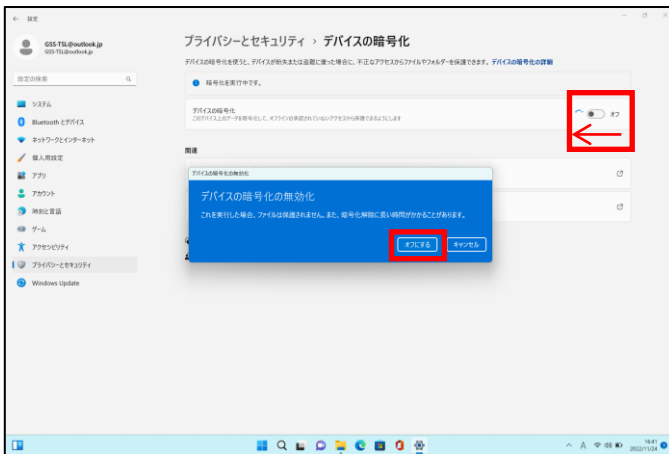
◆デバイス暗号化の自動実行について◆

■暗号化「有効」から「無効」への設定手順

本ページでは、暗号化を有効から無効(解除)にする手順をご案内しています。

注意:暗号化はデータを保護する機能のため、有効のままご使用頂くことを推奨します。無効にされると、パソコンを紛失した際に情報漏洩などのリスクが生じますので、無効化する場合は自己責任でお願いします。

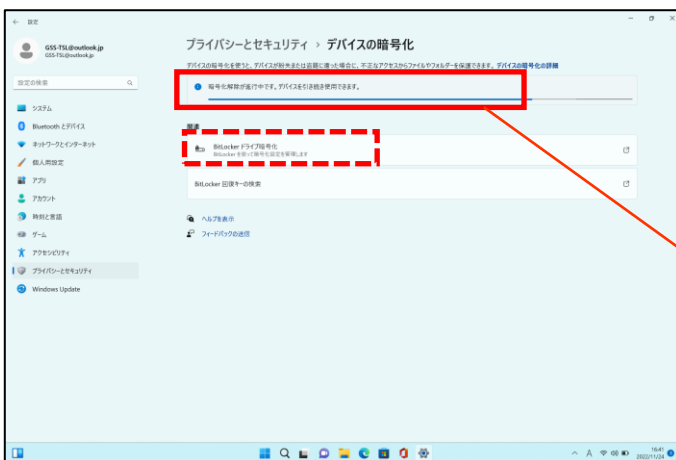
※暗号化を【オフ】にした後に、再度【オン】すると[回復キー]が変更されますので、その場合は[回復キー]を改めてバックアップし直してください。



①本マニュアルのP21～P22の ①～④の手順で次の画面を表示します。

「デバイスの暗号化」のスイッチを「オン」から「オフ」に変更します。

「デバイスの暗号化の無効化」が表示されますので、「オフにする」をクリックします。



②「暗号化解除が進行中です...」と表示されます。

※この状態のままでもパソコンはお使いになれます。

しばらくすると、「デバイスの暗号化」の表示が変わります。



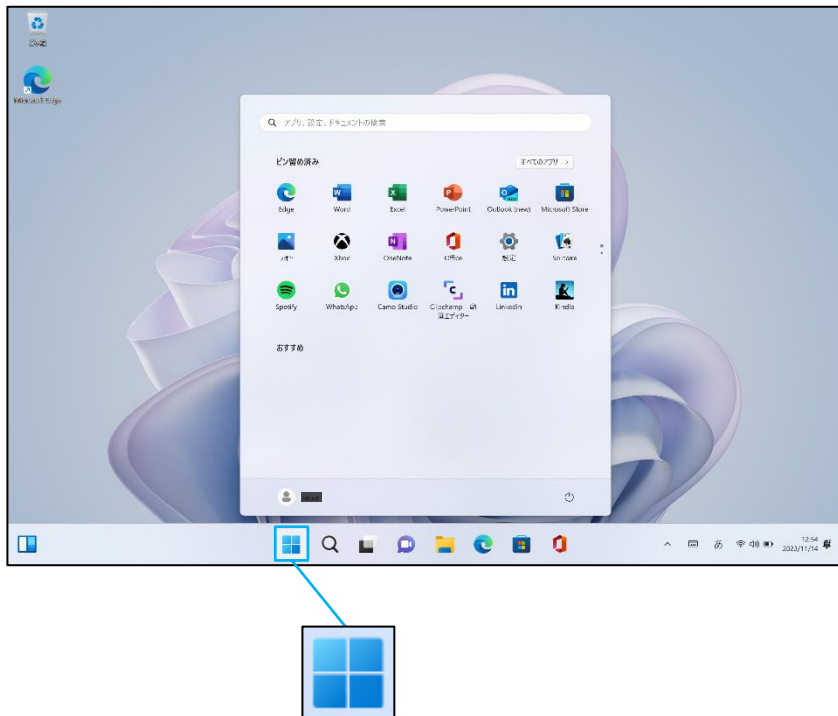
「BitLockerドライブ暗号化」の表示があれば、クリックします。



③「BitLockerが無効です」

となっていることが確認できます。

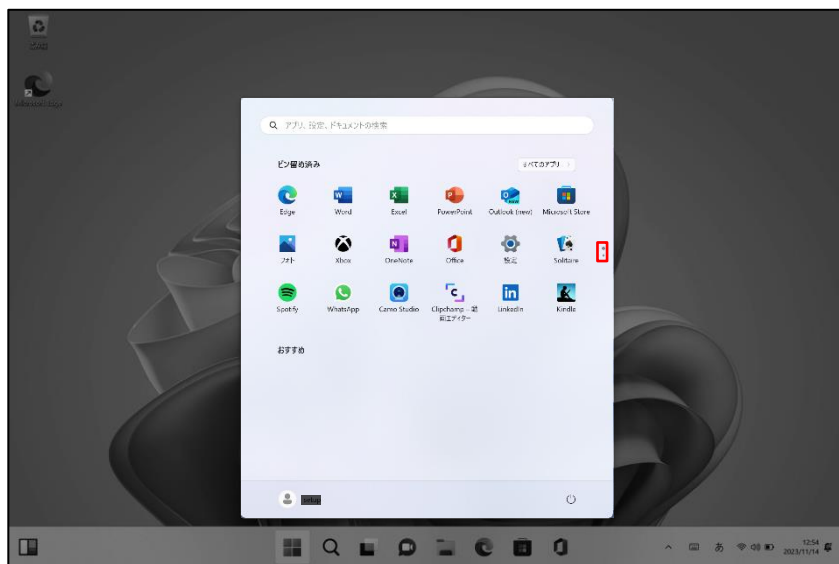
※説明の図にあるアイコン群は例であり、お手元のPCと異なる場合があります



起動後、ログイン画面でパスワードを入力しサインインすると、右のようなデスクトップ画面になります。（起動時にロック画面が表示されログイン画面にならないときは画面を一度クリックしてください。）

デスクトップ画面で画面中央下のスタートボタンをクリックするとスタート画面を表示します。

このスタート画面で起動したいアプリを選びクリックして実行します。



スタート画面上部にはピン留め済みのアプリのアイコンが表示されます。右側にある丸をクリックする事で表示ページを切り替えることができます。

※マウスカーソルをスタート画面のピン留め済みに合わせスクロールをすることでページを切り替えることもできます。

スタート画面下部には「おすすめ」は直近でよく使用されているアプリが表示されます。

次ページから詳細を説明します。

【インターネットブラウザ「Edge」(エッジ) について】

Windows 11 ではインターネットを見るアプリ(ブラウザ)はEdgeを使います。(従来のWindowsのブラウザは「インターネットエクスプローラ (IE)」でした。)インターネット接続環境が整ったらEdgeを使ってインターネットを利用してください。

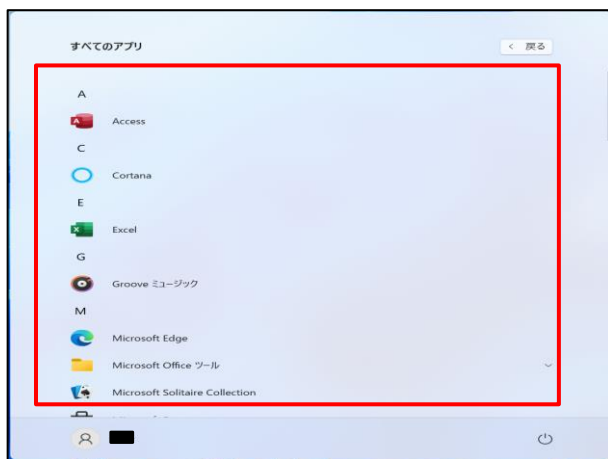


※説明の図にあるアイコン群は例であり、お手元のPCと異なる場合があります

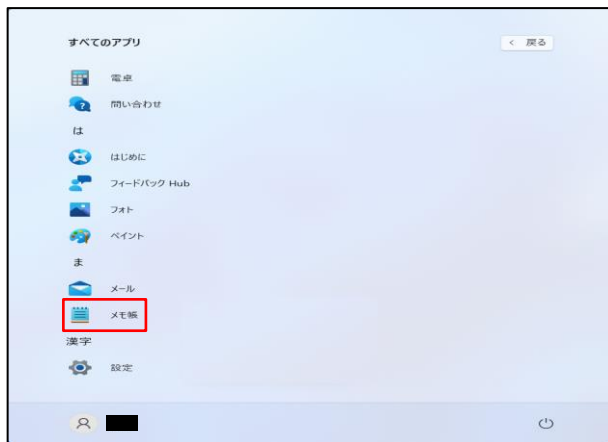


スタート画面に表示されているアプリのアイコンをクリックするとアプリが起動します

スタート画面の上部にある「すべてのアプリ」をクリックすると、インストールされているアプリの一覧が表示されます

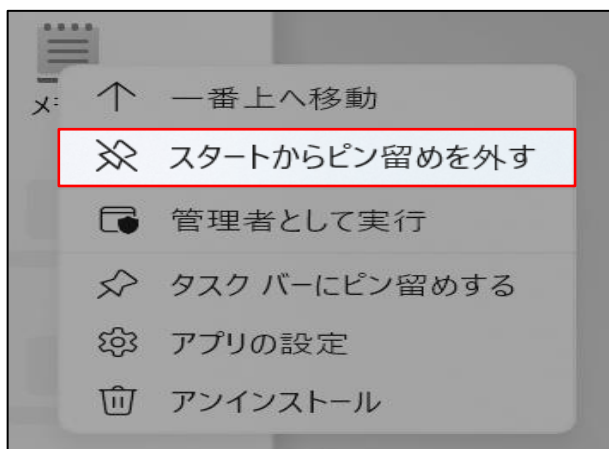
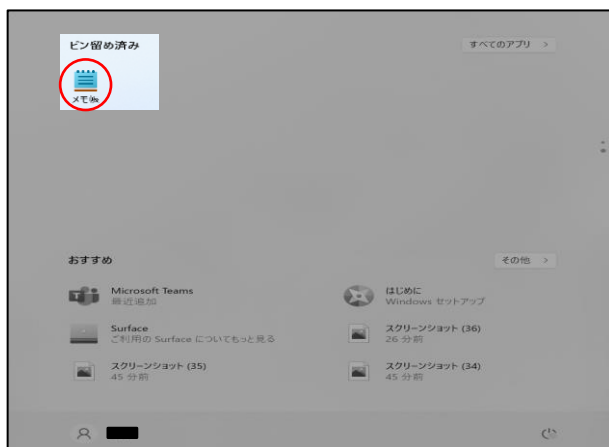
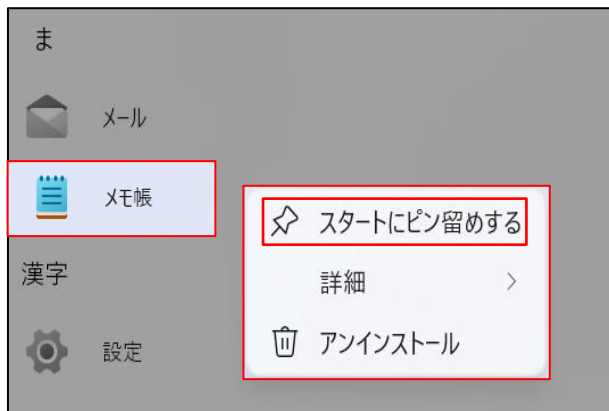


一覧の続きを見る場合は枠内にマウスカursorを合わせ、画面を上下にスクロールします



目的のアプリが見つかったら、アイコンをクリックして起動します

実行したいアプリのアイコンの絵や文字の部分で**クリック**



タイトル画面のカスタマイズ

スタート画面上部の「ピン留め済み」によく使うアプリを追加することができます。

～ 例、アプリ「メモ帳」をピン留めします ～

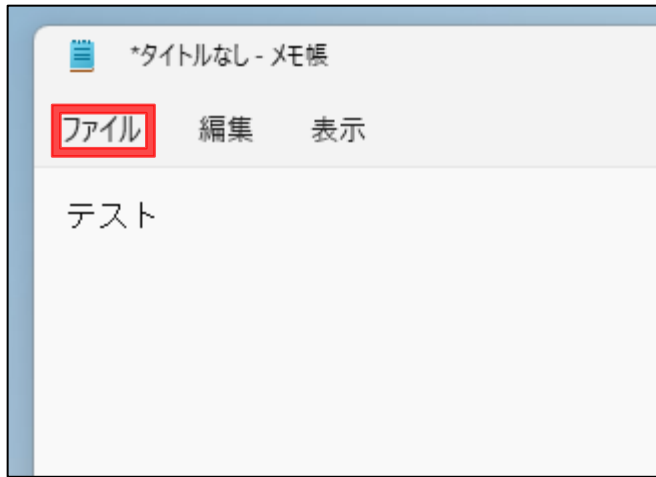
※アプリ「メモ帳」は、「すべてのアプリ」内の「[ま行]」にあります。
一覧画面で目的のアプリ、ここでは「メモ帳」を探し、右クリックします。

表示されたメニューの「スタートにピン留めする」をクリックします。

ピン留め済み内の位置の変更や、不要なものは削除できます。

・位置の変更
異動させたいアプリをドラッグしてみてください、位置が変更できます。

・削除（一覧画面からは削除されません）
タイトルを右クリックします。表示されたメニューで「スタートからピン留めを外す」をクリックします。



タイトル画面のカスタマイズ

～アプリ保存の例、メモ帳の場合～

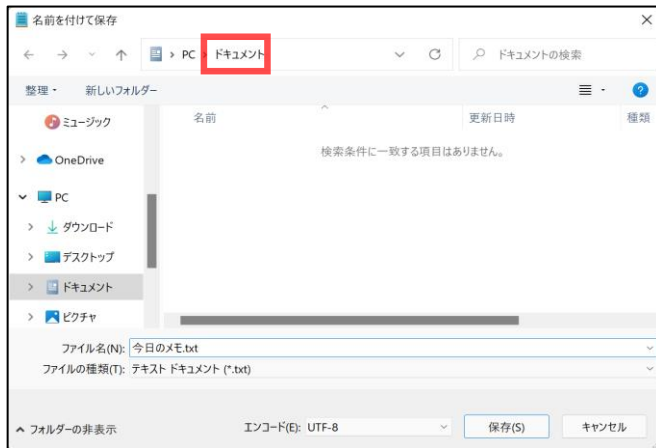
「ファイル(F)」をクリックすると

上から5つ目に

「名前を付けて保存(A)...」が

あるので、クリックすると

左下のような画像が出てきます。



終了時、変更や新しく作ったファイルを保存する場合は「名前をつけて保存」画面になりますがその際、ファイルをどこに保存したかは、下図を参考に意識して覚えておいてください。

ここに注目。ここでは「ドキュメント」に保存しています。

後日、保存したファイルを探すときは「ドキュメント」の中を探します。

Windowsアプリの終了は画面の右上の×をクリックします。

～アプリの終了～

画面右上の×をクリックします





画面中央下部にある「スタートボタン」をクリックし、スタートメニューを表示させます。

スタートボタンのアイコン：



スタートメニュー内にある「設定」をクリックします。

設定のアイコン：



設定メニュー内の左側の「アカウント」をクリックし、右側の「ユーザーの情報」をクリックします。



{Microsoftアカウントとの関連付け}

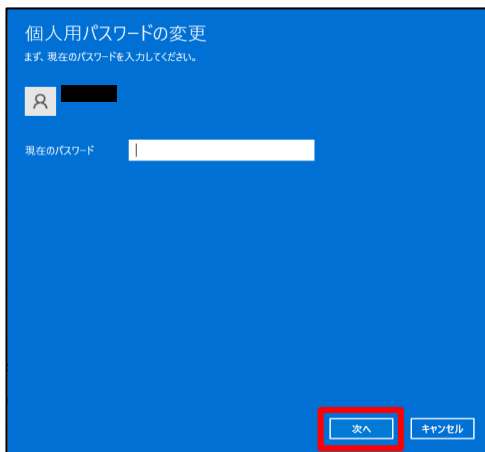
インターネットにつなぎ、「**Microsoftアカウントでのサインインに切り替える**」を実行すると、マイクロソフトアカウントが必要なアプリ (OneDriveなど) が使用できるようになります。
必要な場合は、セットアップ完了後設定して下さい。



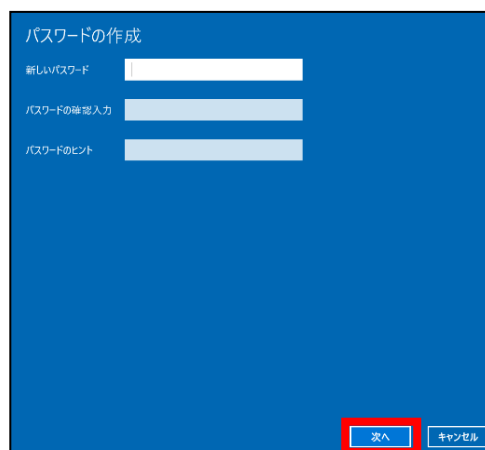
設定メニュー内の左側の「アカウント」をクリックし、右側の「サインイン オプション」をクリックします。



右側の「パスワード」をクリックし、すぐ下に変更と表示されるので、【変更】をクリックします。



設定されている現在のパスワードを入力し、【次へ】をクリックします。



- ①新しいパスワード、
 - ②もう一度、新しいパスワード
 - ③パスワードのヒント
- を入力して「次へ」をクリックします。

新しいPass _____.

次の画面で「完了」をクリックして終了です。

Windows Updateとは？



Windows Updateとはインターネットを通じてWindowsやOffice製品（WordやExcelなど）の発売後に見つかった問題を修正したり、新しい機能を追加する作業のことです。他にもウイルスが忍び込むセキュリティホール（セキュリティの欠陥）をなくし、悪質な攻撃に負けないように、強化することもWindows Updateでは行われます。

通常はWindows Updateの自動更新が有効になっているので、定期的に更新されるようになっています。とても便利な機能ですが、更新中はパソコンが少々遅くなったり、パソコンの再起動が必要な場合もあり、面倒に感じることもあります。

しかし、Updateをせずに使い続けると、不具合が修正されなかったり、セキュリティの欠陥が残ってしまうなど、とても危険です。

セキュリティを向上させたり、不具合を解消する機能がWindows Updateです。

Windows Updateを行わないとトラブルの原因になったり、ウイルスに感染してしまう可能性があります。

パソコンを安全に使い続けるために、常に最新のバージョンにしましょう。

Windows11の不具合やセキュリティ上の問題が発見された場合、修正する更新プログラムがインターネット上に公開されます。

この更新プログラムをダウンロードし、Windowsを最新状態に保つのがWindows Updateです。Windows Updateはインターネットにつなぐことにより自動で行われます。

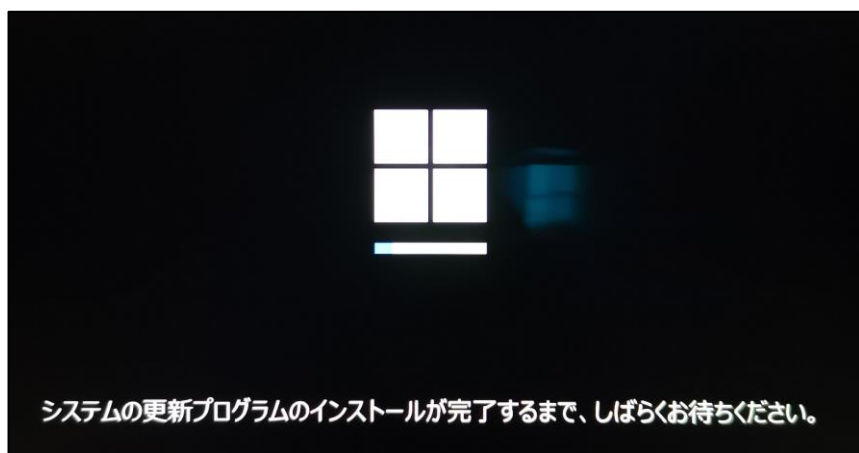
パソコンを購入した際には、メーカーの生産からお手元に届くまでの間に修正プログラムがたまっている為、必ずWindowsUpdateを行って最新の状態にする必要があります。

注意点

Windows Updateはインターネットに接続することにより自動で行われます。言い換えれば、ネットにつながないとUpdateは行われず、最新の状態に保てません。普段ネットにつながない方も定期的につなぐように心がけてください。アップデートは、電源ケーブルを接続した状態で行ってください。

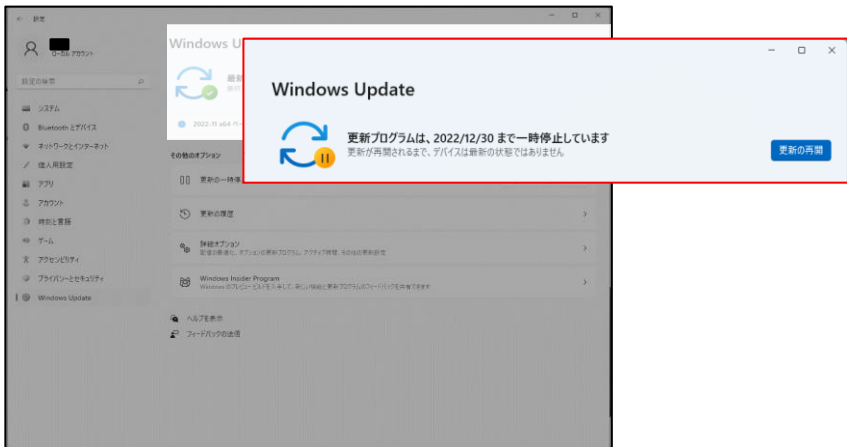
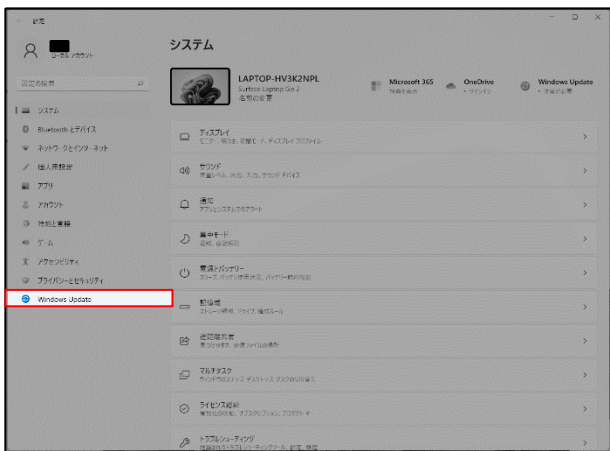
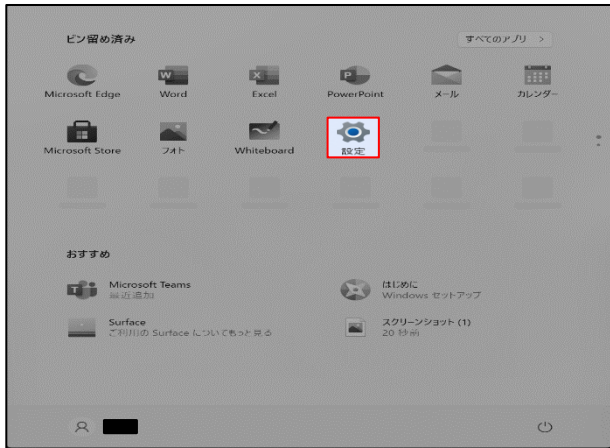


Windows Updateのダウンロード中やインストール中はパソコン全体の動作が遅くなります。異常ではありませんので、そのままご使用ください。



Windows Updateを行った後、Windowsのシャットダウンが上記の様な画面になり、通常以上の時間が（10分～30分以上）かかることがあります。それはパソコンがUpdate後の再設定をおこなっていますのでその際は電源を無理やり切らずに自然にシャットダウンされるのを待ってください。

※異常状態が長く続くとき(20分以上画面が変わらない等)は電話サポートにお問い合わせください。



Windows Updateの停止作業について

Windows 11 ではデバイスの安全と新機能追加のため、更新プログラムのダウンロードが自動的に行われます

ただ、講習会参加者の一斉ダウンロードによるネットワーク遅延を抑えるため、更新延期の設定を行います

自宅でセットアップする場合はこの作業を行う必要はありません

スタート画面から[設定]をクリックします

Windows の設定が表示されます

下部の[Windows Update]をクリックします

Windows Update の設定が表示されます

「Windows Update」の項目内にある更新の一時停止欄の

「1週間一時停止する」を1度だけクリックします

「更新プログラムは、年/月/日まで一時停止しています」と表示されます

右上の[×] をクリックし設定ウィンドウを閉じます

Windows Update の自動ダウンロードと更新は7日後に再開されます



Edgeのアイコン

Windows11 でインターネットを見るときはEdge（エッジ）を使用します。

①ここではインターネット接続ができていていることの確認の意味も込めてマイクロソフトエッジを起動します。

スタート画面やデスクトップ画面にあるEdgeのをクリックします

マイクロソフトエッジが起動します。

(左の画面は一例です。パソコンや設定により初期画面は異なります。)

※初回起動時は

・ [Microsoft Edgeへようこそ。Windowsで最適に動作するブラウザです。]は【ユーザーデータを使用せずに開始】をクリック

・ [常に最近の閲覧データにアクセスできるようにします。]は【許可しない】を選択し、【確認して続ける】をクリック

・ [Googleからの閲覧データのインポートをお手伝いします]は【このデータを使用せずに続行する】をクリック

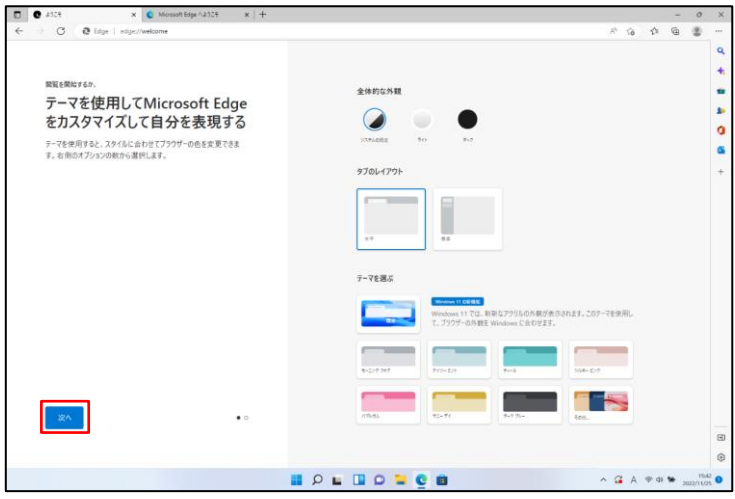
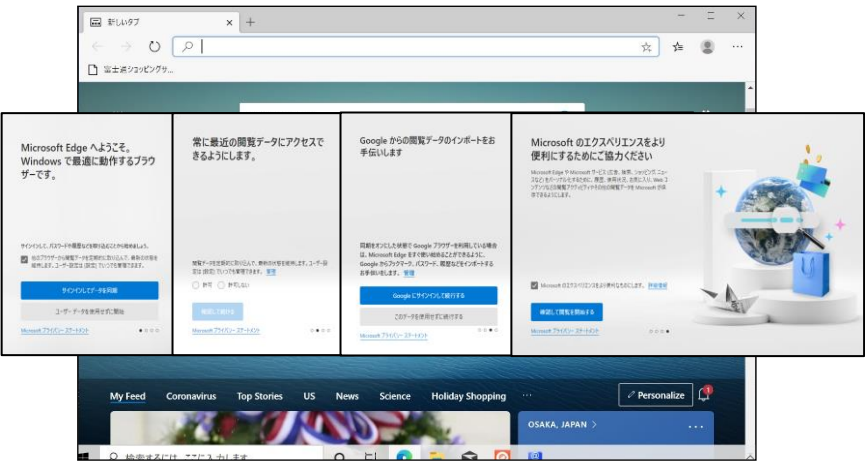
・ [Microsoftのエクスペリエンスをより便利にするためにご協力ください]は【確認して閲覧を開始する】をクリック

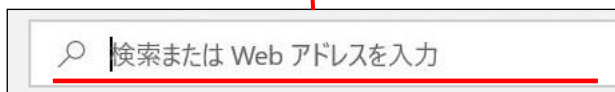
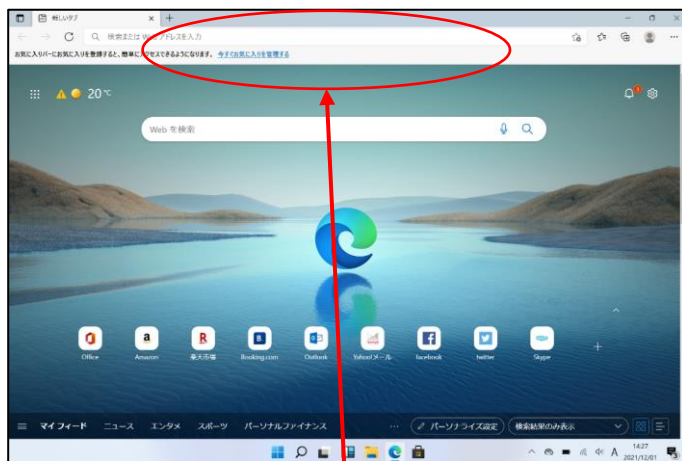
・ テーマを使用してMicrosoft Edgeをカスタマイズして自分を表現する

任意で右側にあるテーマを選択し、左下の【次へ】をクリック

・ Windows タスクバーから、お気に入りのサイトにアクセスできます。

ご利用されるサイトに任意でチェックを入れ、左下の【完了】をクリックします。





アドレスの領域



② 見たいホームページアドレスを入力します。

たとえば、Googleなら
www.google.co.jp と入力し、Enter
を押します。

一般にホームページアドレスの
http://は入力時省略できます。
http://www.google.co.jp →
www.google.co.jp

ヒント💡

表示されている文字をBackspace
キー等で削除し、空白にしてから新
たにアドレスを打ち込みます。



Windows11 でインターネットを見るときは Edge (エッジ) を使用します。

Edgeを起動した時に、最初に表示される Webページは変更できます。

例として、Googleに変更する方法を紹介 します。

Edge(エッジ)

【変更手順】 Edgeを起動し、設定 画面で設定変更します。

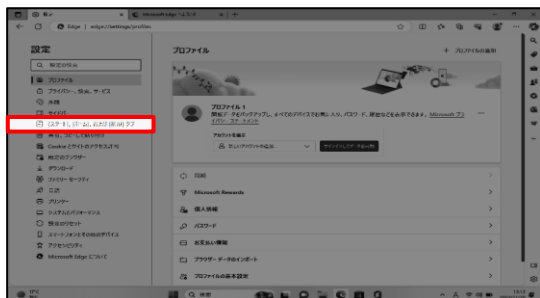
1



①画面右上の「...」をクリックして出てきたメ ニューの「設定」を選択してください

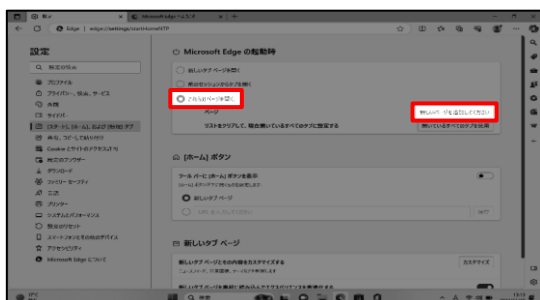


2



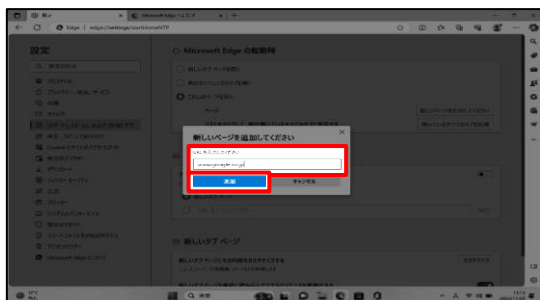
②左列の上から5番目、 「スタート」、「ホーム」、および「新規」タブ をクリックしてください。

3



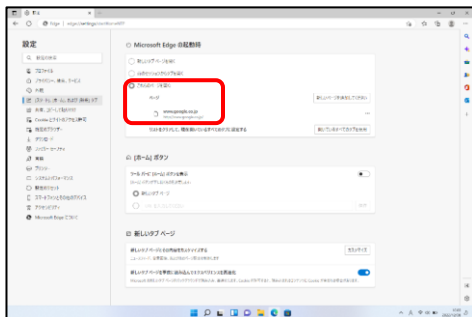
③右側「これらのページを開く」のボタンをク リックしてください。続けて右の「新しいページ を追加してください」をクリックしてください

4



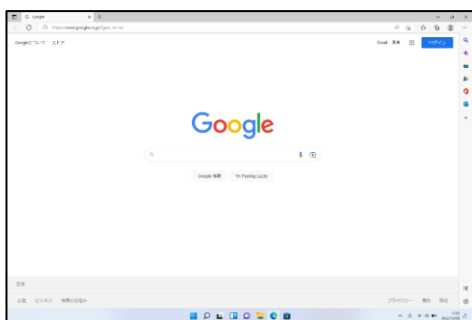
④「URLを入力してください」の欄に GoogleのURL www.google.co.jpを入力し、「追加」ボ タンをクリックします。

5

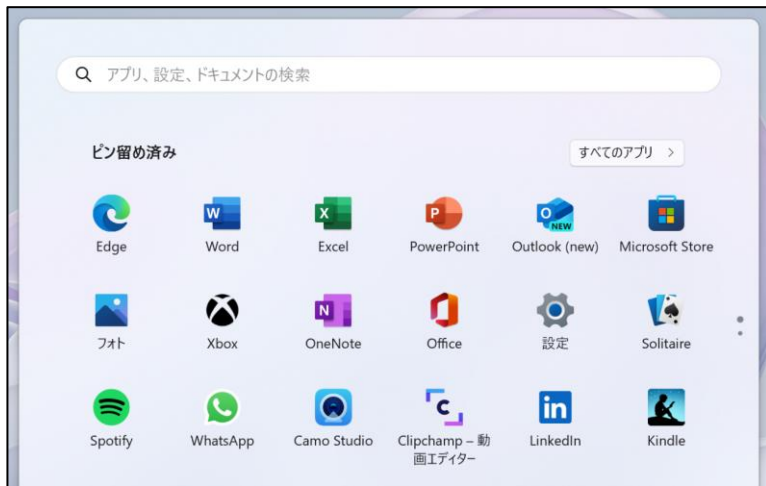


⑤ Googleのアイコンとともに、入力したGoogleのURL情報等が表示されていることを確認。

6



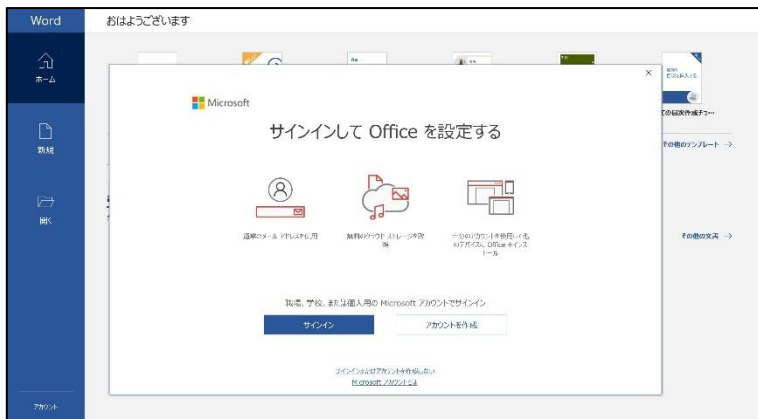
⑥ 次回、Edgeを起動するとGoogleが表示されます。複数ページの起動登録もできるので、よく使うページを登録してみましょう。



ライセンス認証には大学もしくは生協から提供されるID・パスワードが必要です

[スタート]メニューからいずれかの Office アプリケーションを起動します

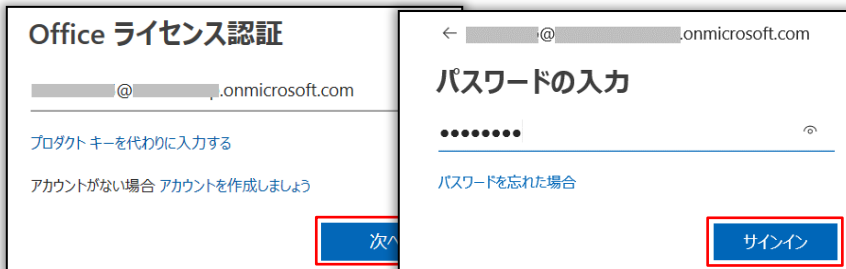
(Word/Excel/PowerPointなど)



アカウント

トでのサインインを促す画面が表示されます

[サインイン] をクリックします



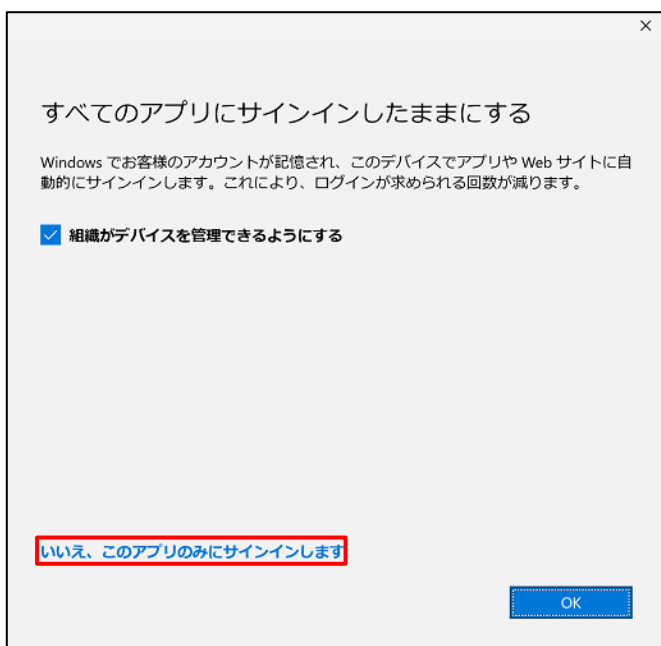
ID・パスワードを入力し、[次へ]をクリックします

ライセンス認証に用いるID(メールアドレス)

~@~ac.jp もしくは

~@onmicrosoft.com

※大学によっては学内システムによるID・パスワード入力画面が表示されます



しばらくすると[すべてのアプリにサインインしたままにする]という表示が出てきますので、

左下の【いいえ、このアプリのみにサインインします】をクリック



ライセンス認証には大学もしくは生協から提供されるID・パスワードが必要です

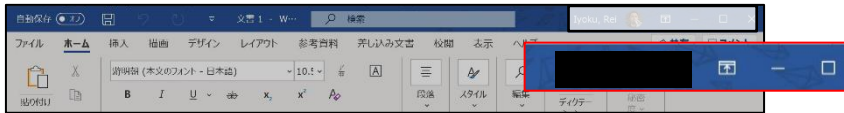
しばらく待つと「ライセンス契約に同意します」という画面が表示されます

[同意する]をクリックします

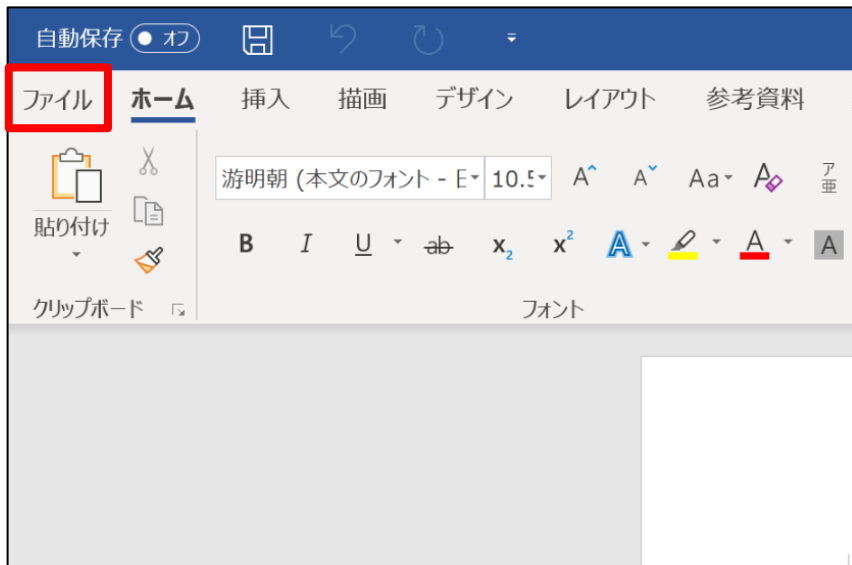


プライバシーの利用に関するメッセージが表示されます

[閉じる]をクリックします



Officeアプリケーションのウィンドウ右上にサインイン状態を示す情報が表示されます



Office アプリケーション利用には定期的な更新プログラムの適用が必要です

安定したネットワークでSurfaceを利用して
いれば自動的に適用されます

ここでは手動で更新適用する方法を紹介します

はじめに、インターネットへ接続していることを
ご確認ください。

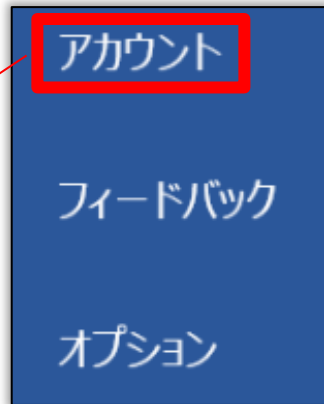
1. Word などの Office アプリを開き、新しいドキュメントを作成します。

2. [ファイル]、[アカウント]の順に移動します。

※ Outlook を開いている場合は
[Office アカウント]に移動します。

※左図はWordの画面です。

3. [製品情報] で、[更新オプション]、[今すぐ更新]の順に選びます。



USBメモリはセットアップ講習会で貸与するものです

USBメモリをSurface 右側面の USB ポートに接続します

画面右下のメッセージと音でUSBメモリが認識されたことがわかります

デスクトップ画面下部にあるフォルダのアイコンをクリックします

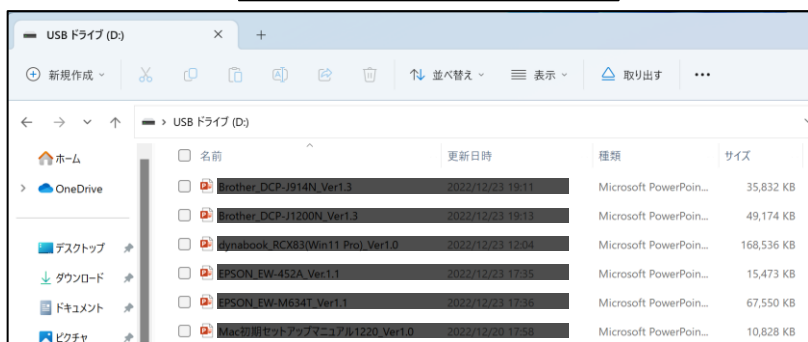
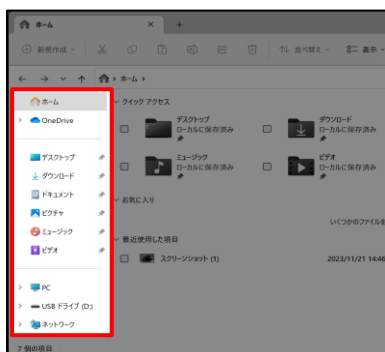
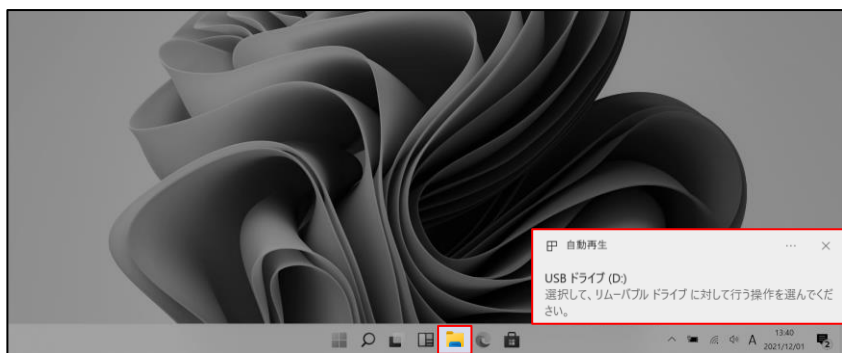
エクスプローラーのウィンドウが表示されます

ウィンドウ左列から末尾に(D:)と書かれたアイコンをクリックします

名前は異なる場合があります以下は一例です
[USBドライブ(D:)]

[リムーバブルディスク(D:)]

Dドライブの内容が表示されます



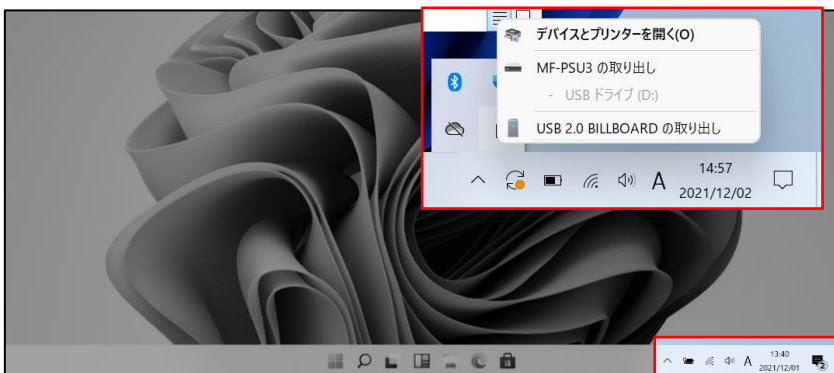
USB機器の取り外し

デスクトップ右下の[⌘]アイコンをクリックします

USBメモリのアイコンをクリックし、[～の取り出し]をクリックします

メッセージと音で取り外し可能な状態になったことがわかります

USBメモリを取り外します



パソコンの保存データのバックアップについて簡単に説明します。

バックアップの必要性

パソコンは人が作った機械です。必ずいつかは壊れます。

また、取り扱いや運が悪いと短期間で故障することもあります。

パソコンが故障してしまったときには、保存されていたファイルが壊れたり修理に出した際にデータが「全て消去」される場合が多々あります。

また、うっかりミスで大事なデータを消してしまったり、悪意でデータを消してしまう「コンピュータウイルス」にかかることもあります。

そのような時の為に、大事なデータは定期的に「バックアップ」をして下さい。

バックアップの基本

基本は「パソコンが壊れて自分が苦勞して作ったデータが消えてなくなることを防ぐこと」です。原則は「大事なデータは2か所に保存」（パソコンと外部ストレージの2か所に保存が基本）です。

理由は「二つの機械が同時に壊れることはまずない」からです。

バックアップ方法

「バックアップ」は難しいことではありません。上記の基本を参考に、大事なデータをUSBにつないだ外部ストレージや下記の光学ディスクにも保存してください。それだけで完了です。

バックアップの時期

毎月始め等、定期的に計画して行いましょう。

また、大事なレポート作成中は随時（毎日、毎時、休憩毎）に実施。

バックアップに必要な機器（別途購入が必要）



① 外付けハードディスク（HDD）

最近では、「小型」で「大容量」のUSB接続のHDDも多く販売されています。USBポートに差込むだけで、簡単に使えます。



② USBメモリ

USBメモリも、USBポートに差込むだけで使えます。小型ですので持ち運びにも便利です。HDDより小容量です。



③ CD-RやDVD-Rなどの光学ディスク

CD-RやDVD-Rなどのディスクに保存も出来ます。ディスクなどメディア自体は安価です。

アップデート

ソフトウェアの小規模な更新、改善、修正、機能追加などのことを呼びます。大規模な更新の場合はアップグレードと呼びます。

アプリケーションソフト、アプリ

文書の作成、数値計算など、ある特定の目的のために設計されたソフトウェアのことを呼びます。

インストール

パソコンでアプリケーションソフト（Wordやメールソフト等）が使用できるように設定する為の作業です。

シリアル番号

ハードウェアのメーカー側で所有者の管理や偽装を防止するなどの目的で製品ごとに割り当てた番号。修理に出したり、ユーザー登録時に必要になります。

ソフトウェア

OSとアプリケーションソフト等のプログラムの総称をソフトウェアと呼びます。
例：OS（Windows、Mac等）
アプリケーションソフト（Word、Edge、ウイルスバスター等）

ダウンロード

インターネット上からファイル（文章、音楽、画像等）をパソコン上に保存する作業です。

スタート画面

パソコンのスタートボタンクリック後に表示される基本となる操作画面です。

バックアップ

パソコンの中のデータをUSBメモリや外付けHDD等にコピーを行う作業です。パソコンの故障や操作ミスによってデータが消えてしまった時の為に行います。
バックアップ例：文書、写真、音楽、メール、インターネットのお気に入り等

ハードウェア

パソコンを構成している部品や周辺機器等の総称をハードウェアと呼びます。
例：HDD、メモリ、キーボード、マウス、ディスプレイ、プリンタ、iPod等

プロダクトキー

ソフトウェアのメーカー側でユーザ管理やソフトウェアの不正コピー防止のために発行している番号。ソフトウェアのインストール時やユーザー登録時に使用する。

メモリ

データの保存場所であるHDDから、データを処理するCPUに渡すデータを一時的に置いておくための部品です。
メモリの容量が大きいと一度にたくさんのアプリケーションソフト（Word、ブラウザ等）を使用できたり、動作がスムーズになります。

ライセンス

ソフトウェアを購入した際にソフトウェアを使用する権利のこと。

リカバリ（初期化）

パソコンを購入時の状態に戻す作業です。
パソコンが起動しなくなった際などに行います。

ログイン/ログオフ

ログインはパソコンを利用したり、ホームページ内のサービスを利用する際にIDとパスワードを入力して認証をする作業です。
ログオフはパソコンやサービスの利用を終了する際に行う作業です。

CPU（シーピーユー）

パソコン全体の処理・計算を行う、頭脳と言える部品です。
CPUが良いものであるほど、コンピュータは複雑で多くの処理を速く安定して行えます。

HDD（ハードディスク）

パソコンの中でデータの読み書きを行う装置になります。
容量が多ければ多いほどたくさんのデータを書き込むことができます。

SSD（エスエスディ）

HDD同様データの読み書きを行う装置になります。
SSDはHDDの機構部分をなくし、電子部品で構成された装置でHDDに比べ高速で消費電力が少ない特徴があります。

LAN

ケーブルや無線などを使って、同じ建物の中にあるコンピュータや通信機器、プリンタなどを接続し、データをやり取りするネットワークです。

OS（オペレーティングシステム）

WindowsやMac等の主にパソコンのソフトウェアやハードウェアを管理する機能になります。

Wi-Fi（ワイファイ）

無線LANの規格のひとつ。
最近ではWi-Fi＝無線LANといった意味で使われることが多いようです。

32bitと64bit

まずbit(ビット)とはパソコンで扱う情報量の最小単位です。
bitの単位が大きい方がよりCPUで多くの情報量进行处理することができます。
※古いWindowsでは「32bit(ビット)」を使用していましたが、最近のパソコンは「64bit(ビット)」に切り替わりました、その為、以下の注意点があります。

互換性の違い

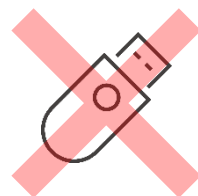
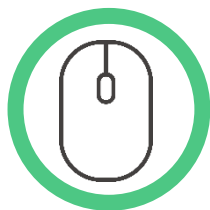
一般に32 bit(ビット)用アプリケーションと64 bit(ビット)アプリケーションは互換性がありません。

古いアプリケーションソフトには32 bit(ビット)のみ対応の場合があり、Windows対応と記載

されていても最近の64 bit(ビット) Windowsでは動作しないアプリケーションソフトがあります。

古いアプリケーションソフトをインストールする場合は64 bit(ビット)に対応しているか確認する必要があります。

セットアップが終わったら...

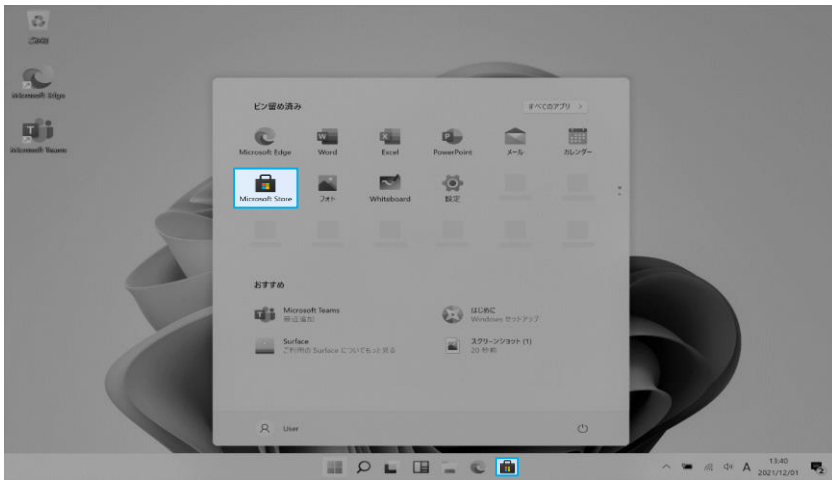


マウスはパソコンに電源が入っていても自由に抜き差しできますが、**USBメモリ**のようなデータを保存しておく機器の場合は、「**USB機器を接続する**」の手順を踏んで外しないと、故障の原因となります。



Surfaceを活用するために





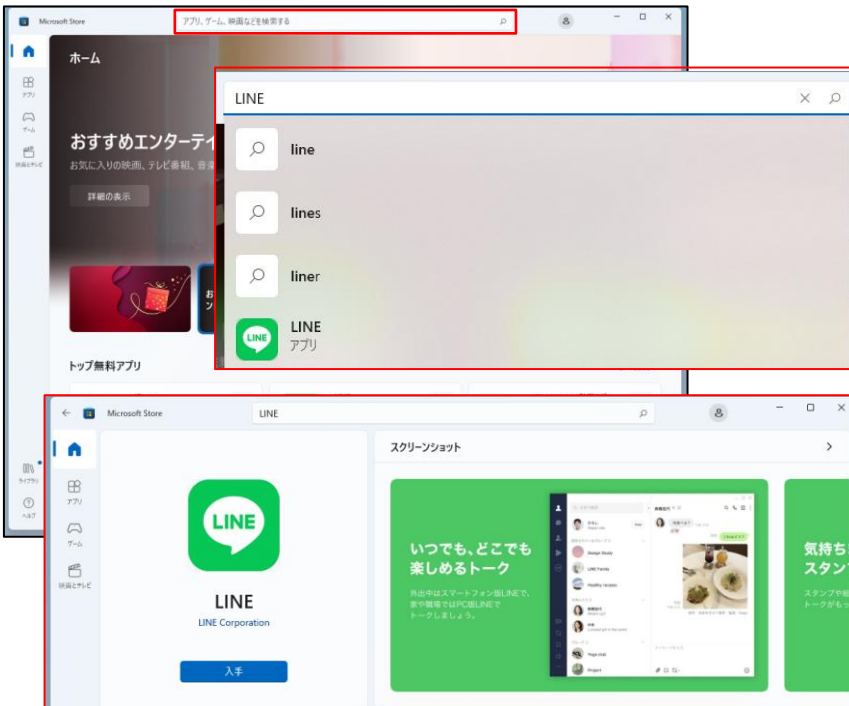
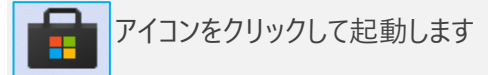
「Microsoft Store」では無料/有料のアプリをダウンロードして利用できます

LINE・Twitter・InstagramなどのアプリをSurfaceにインストールして活用しましょう

※ダウンロードにMicrosoftアカウントが必要な場合があります



スタートメニュー内 もしくはタスクバーの



上部の【検索】ボタンをクリックすると

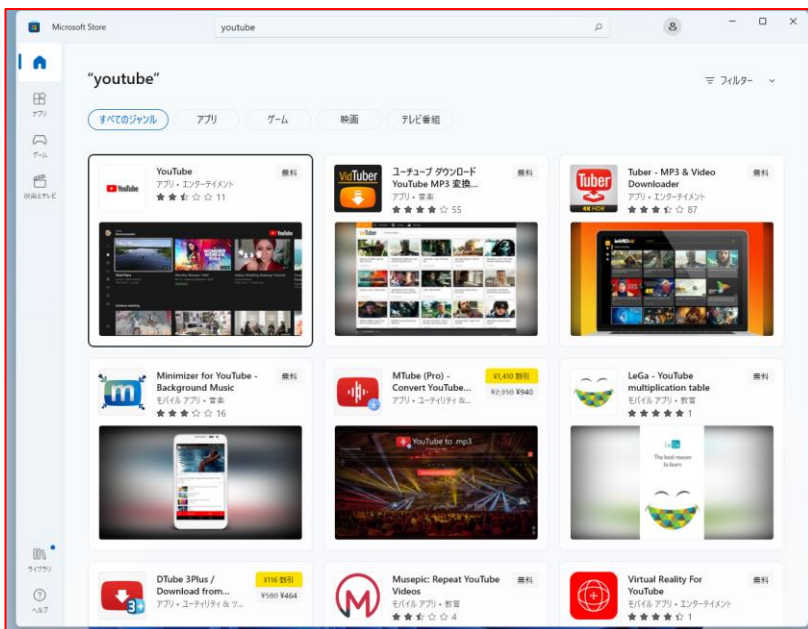
検索窓が表示されるのでそこにキーワードを入力してアプリを探すことができます

[入手]もしくは[インストール]をクリックするとインストールが開始されます

インストールしたアプリはスタートメニューに表示されます

※インストールの前にアプリのディベロッパー(開発者)を確認しましょう

一例としてLINEのディベロッパーは「LINE Corporation」ですので公式アプリです



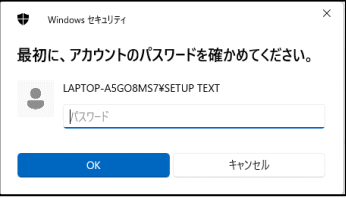
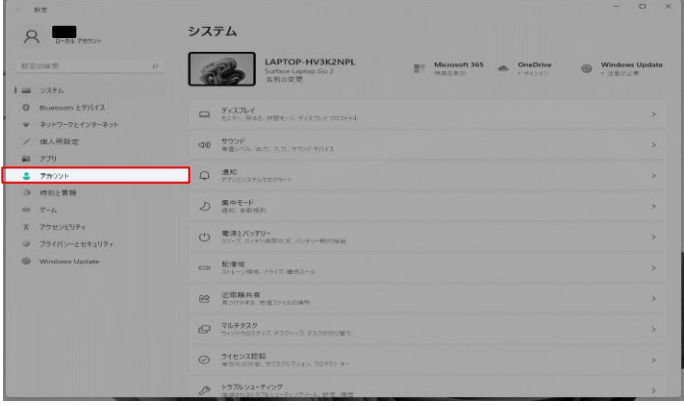
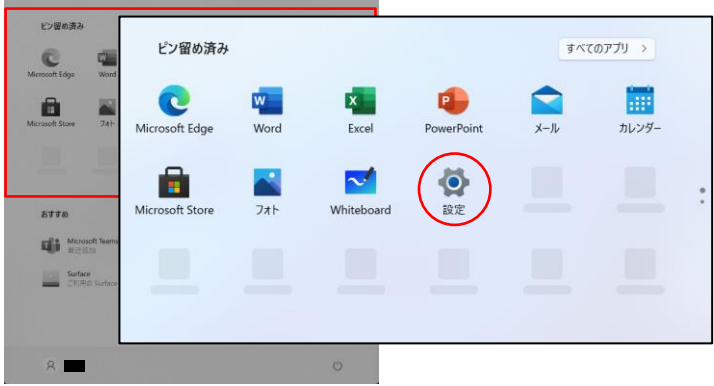
「Youtube」と検索した結果の画面です

表示されている一部が非公式のディベロッパーのアプリです

- ・別のアプリをインストールさせようとする
- ・インターネットブラウザの初期ページを強制的に書換える
- ・個人情報にアクセスしようとする

などのリスクを伴います

自己責任のもとで利用してください



Windows Hello を利用すると、顔認証でパスワード入力なしにサインインが可能です

設定のためには

- ・パスワード
- ・PIN

の2種を設定しておく必要があります

デスクトップ下の「スタート」メニューから⚙️アイコン[設定]をクリックします

「Windows の設定」が表示されます

[アカウント]をクリックします

アカウントの画面が表示されます

右列の[サインイン オプション]を選択します

サインイン オプションの項目が表示されます

「PIN」の項目にある[セットアップ]ボタンをクリックします

※初期セットアップでパスワード設定していない場合はPIN追加の前に

[パスワード]の項目からパスワードを設定する必要があります

まずアカウントのパスワードを入力し、[OK]をクリックします

次にPINを設定します

4桁以上の数字を入力してください

2つのボックスに希望するPINを入力し、[OK]をクリックします



指紋認証をセットアップします

[指紋認証(Windows Hello)]をクリックし、
[セットアップ]のボタンをクリックします



① Windows Hello の設定ウィンドウが開きます
す

[開始する]をクリックします



② ユーザー確認のウィンドウが表示されます
設定した[PIN]を入力します



③ 電源ボタンにタッチと表示されます。
指紋登録したい指を電源ボタンに当てて離す
動作を繰り返します



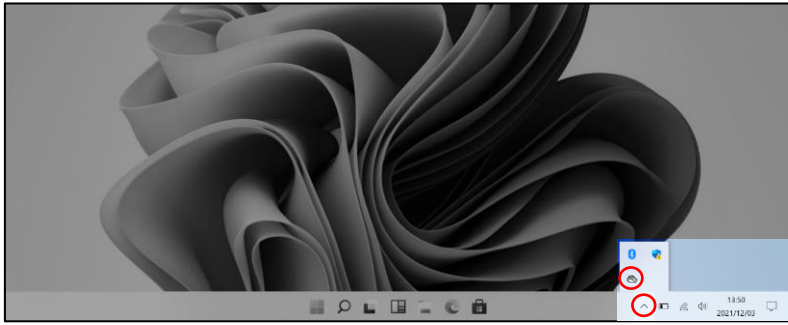
④ 「次は別の角度で行ってください」と表示され
たら[次へ]をクリックします



⑤ 指の縁を読み取るために、角度を変えなが
ら指を当てて離す作業を繰り返します



⑥ 「すべて完了しました。」と表示されたら[閉じ
る]をクリックします。



※OneDrive はクラウドを使ったストレージサービスです

Office ライセンスのIDもしくはMicrosoft アカウントを設定して利用します

デスクトップ右下の[∧]をクリックします

[☁]雲のアイコンをクリックします

OneDrive の設定ウィンドウが表示されます

アカウントのメールアドレス入力後、【サインイン】をクリックし、

次はパスワードを入力し後、[サインイン]をクリックします



[Microsoftはお客様のプライバシーを尊重しています。]

【次へ】をクリックします



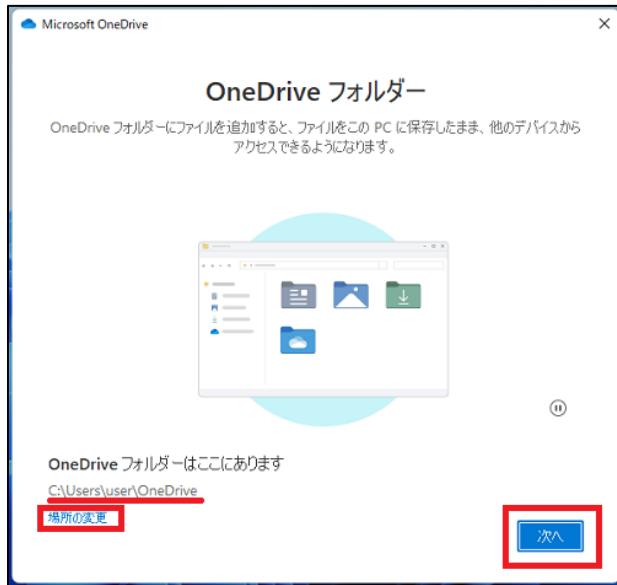
[一緒に進捗する]の画面が表示されたら、

次のどちらかを選択し【承諾】をクリック

・これらのアプリの改善に役立つオプションのデータを送信します

・オプションデータを送信しない



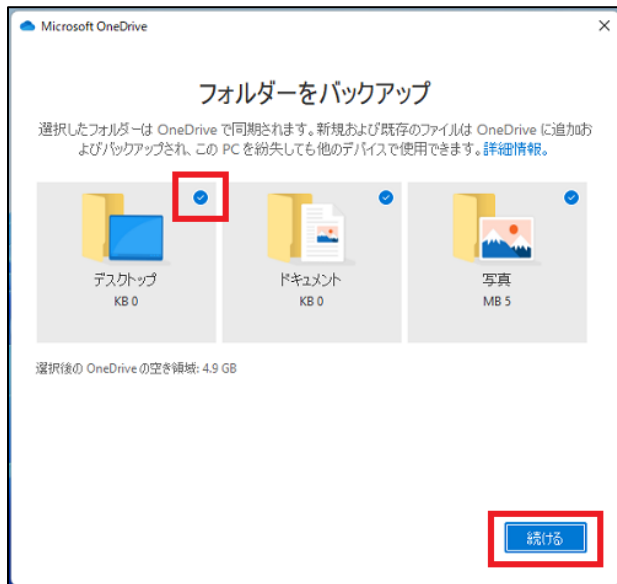


※OneDrive はクラウドを使ったストレージサービスです

Office ライセンスのIDもしくはMicrosoft アカウントを設定して利用します

[OneDriveフォルダー]の表示がされたら
右下の【次へ】をクリック

※保存場所を変更する場合は右下の[場所の変更]をクリックし設定をする



[フォルダーをバックアップ]の表示がされたら

- ・デスクトップ
- ・ドキュメント
- ・写真

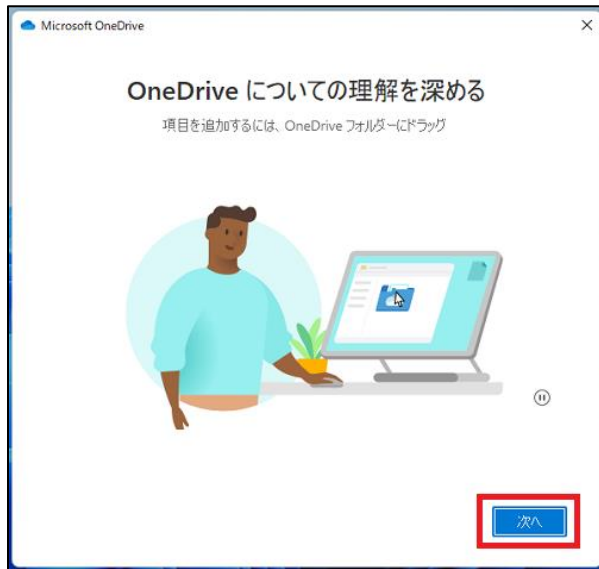
が選択されているので、右下の【続ける】をクリック

※バックアップするフォルダーから外す場合は右上のチェックを外す



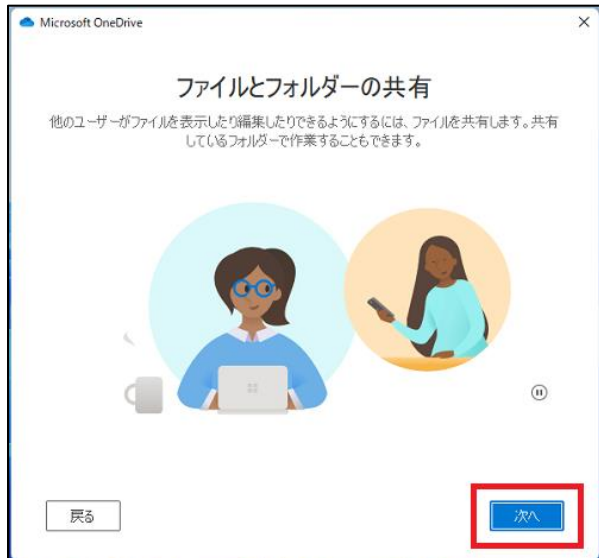
[OneDriveを再断言に活用する]の表示がされたら

【後で】をクリック



OneDrive の機能紹介のウィンドウが表示されます

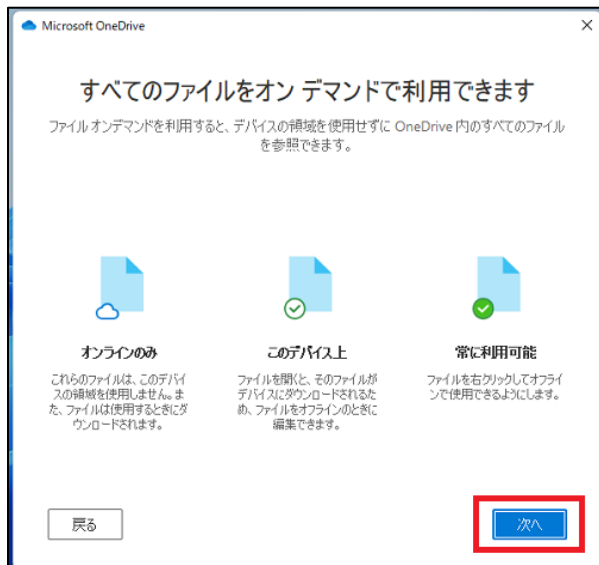
右下の[次へ]をクリックし、紹介をすすめます

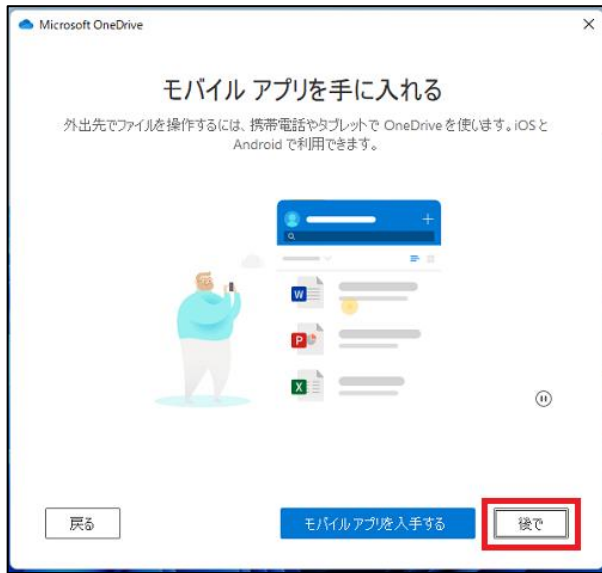


OneDrive に保存したファイルは

- ・Surface 以外のPC
- ・iPhone・Android スマートフォン
- ・Chrome/Safari/FireFoxなどのブラウザなどからダウンロード可能です

万が一のトラブルでSurface が起動不能になった場合に備え、大事なデータはOneDriveフォルダに保存するようにしましょう

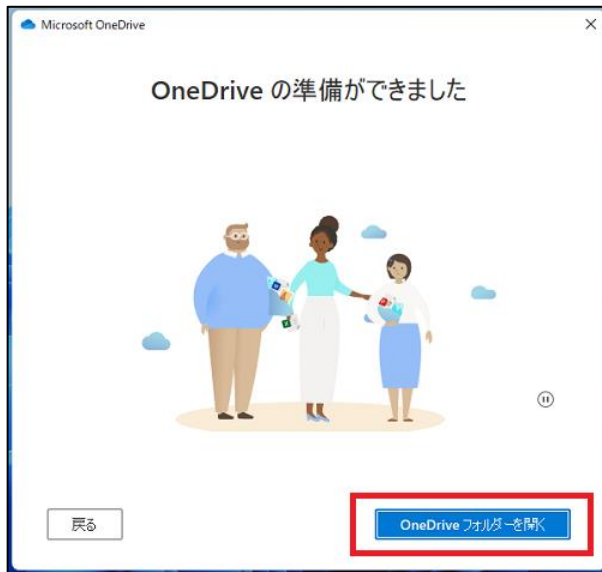




[モバイルアプリを手に入れる] が表示されたら【後で】をクリック

OneDrive に保存したファイルは

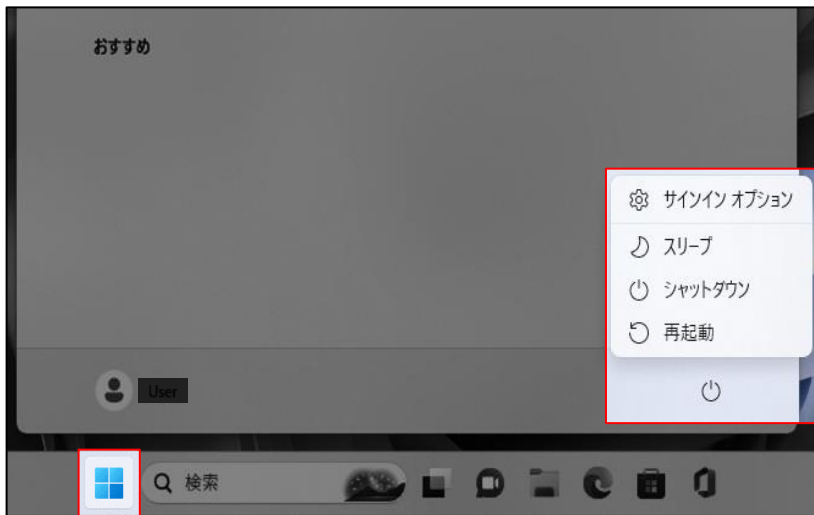
- ・Surface 以外のPC
- ・iPhone・Android スマートフォン
- ・Chrome/Safari/FireFoxなどのブラウザなどからダウンロード可能です



万が一のトラブルでSurface が起動不能になった場合に備え、大事なデータは OneDrive フォルダに保存するようにしましょう

OneDrive の準備が完了しました

[OneDrive フォルダーを開く]をクリックするとOneDrive フォルダーが表示されます



通常のシャットダウン方法

方法1

[スタート] メニューを開き

[電源] > [シャットダウン]を選択します。

方法2

電源ボタンを長押し (約 3 秒)

[スライドして PC をシャットダウンします] 画面が表示されたら下にスライドします

動作が不安定、フリーズした場合はシャットダウンできない場合があります

やむを得ない場合は以下の方法でシャットダウンしてください



シャットダウンできないときは



方法1 電源20秒長押し

Surface が再起動するまで電源ボタンを長押しし続け、Windows ロゴ画面が表示されたら (約 20 秒) 電源ボタンを離します。

